

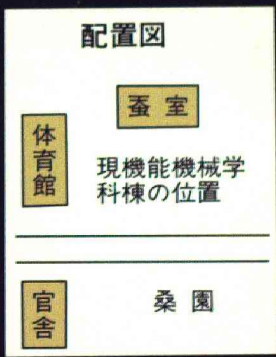
各科・各学科の変遷



烏帽子岳をバックにした桑園造成作業（大正初期）

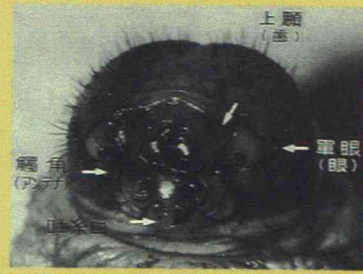


太郎山を背景にした蚕室と桑園（大正初期）



養蚕科の変遷

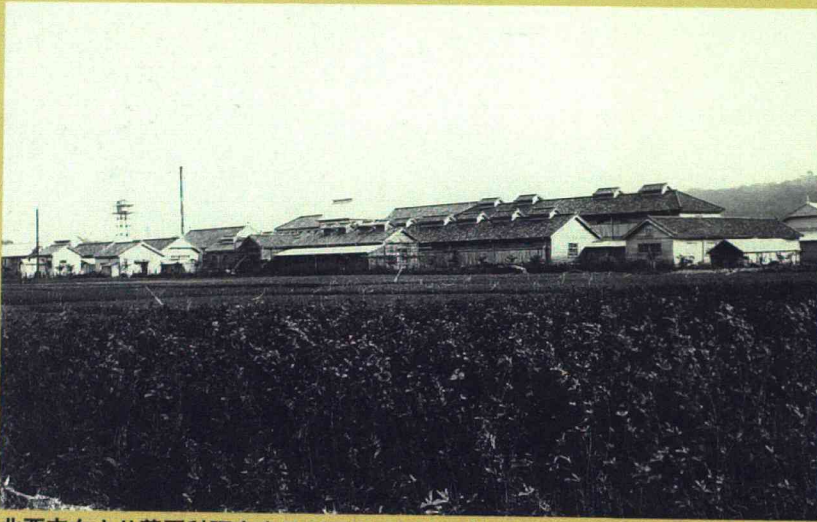
養蚕科(明治43年)―蚕糸科(昭和19年)―
 養蚕科(昭和21年)―養蚕学科(昭和24年)―繊維農学科(昭和36年)―
 応用生物科学科(昭和60年)―現在に至る



蚕の頭部形態 (農山漁村文化協会提供)

養蚕科草創期の姿

明治四十三年(大正期)



北西方向より養蚕科研究室及び蚕室を望む (大正初期)



二階建蚕室 学生実習室 (大正初期)



平屋蚕室 教官用実験蚕室 (大正初期)



土室 蚕種保護用・蚕室中庭

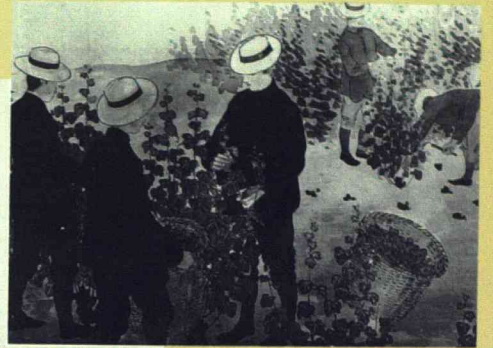


桑園の造成作業（大正初期）



天地返し実習（大正初期）

測量実習（大正初期）



摘桑（錦絵）



桑園実習 馬による耕耘作業（大正初期）



桑の接木実習（大正初期）



桑園の管理 奇蛙（大正初期）



栽桑実習 桑の収穫調査（大正初期）



養蚕実習 折ワラ蒺・除沙網の作成（大正初期）



養蚕実習 除沙網の蒸気消毒（大正初期）



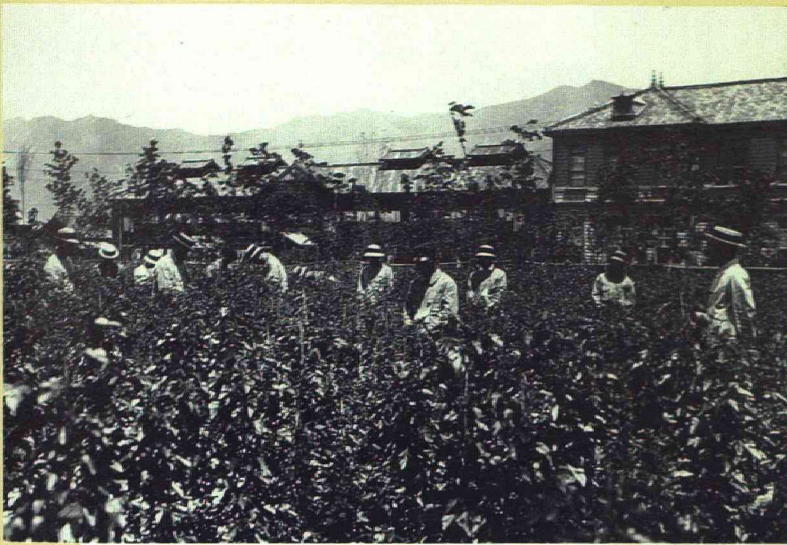
養蚕実習 蚕室の消毒（大正初期）



原蚕飼育実習 蚕の選抜（勝木喜董先生・大正初期）



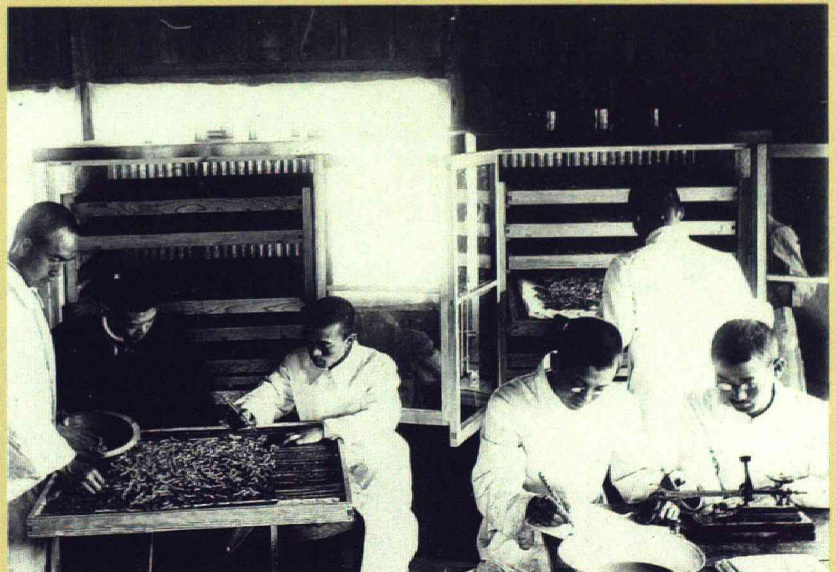
蚕種の微粒子病検査（錦絵）



養蚕実習 摘桑（大正初期）



養蚕実習 桑葉の収穫（大正初期）



養蚕実習
恒温装置による稚蚕飼育（大正初期）



養蚕実習 除沙 (大正初期)



養蚕実習 自在カギを利用した条桑育 (大正初期)



養蚕実習 収繭 (大正初期)



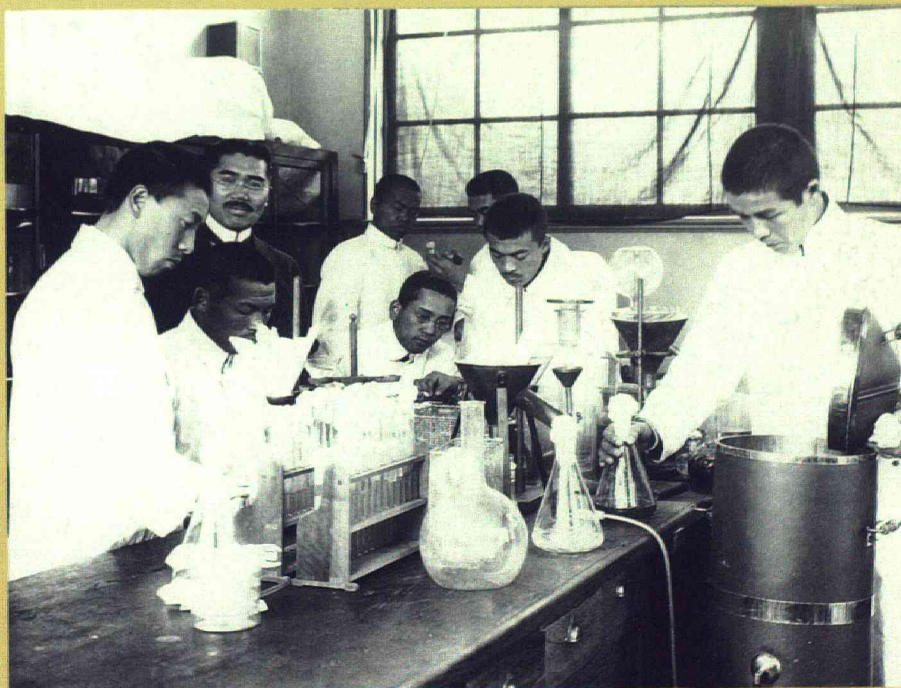
パラフィン包埋試料の作成実験



蚕体解剖学実験（大正初期）



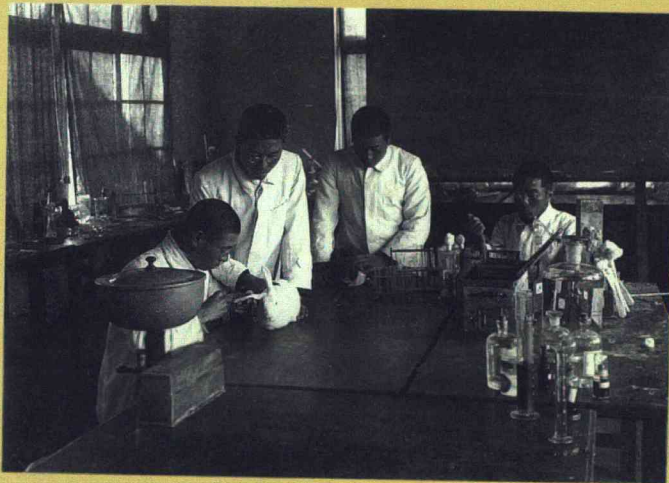
蚕胚子観察実験（大正初期）



蚕体病理学実験
（大森順造先生
・大正初期）



微生物学実験（大正初期）



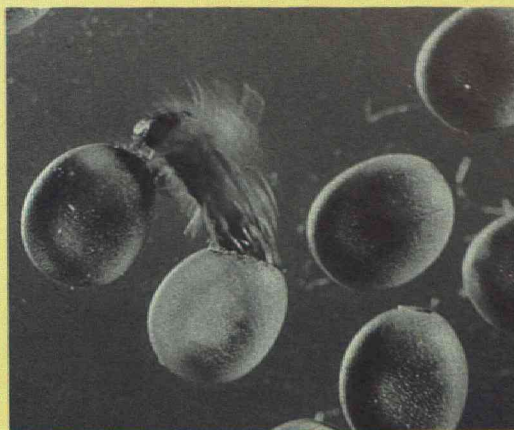
動物実験 兎の採血
（大正初期）



標本展示室



巢立ち 蚕蛾



孵化

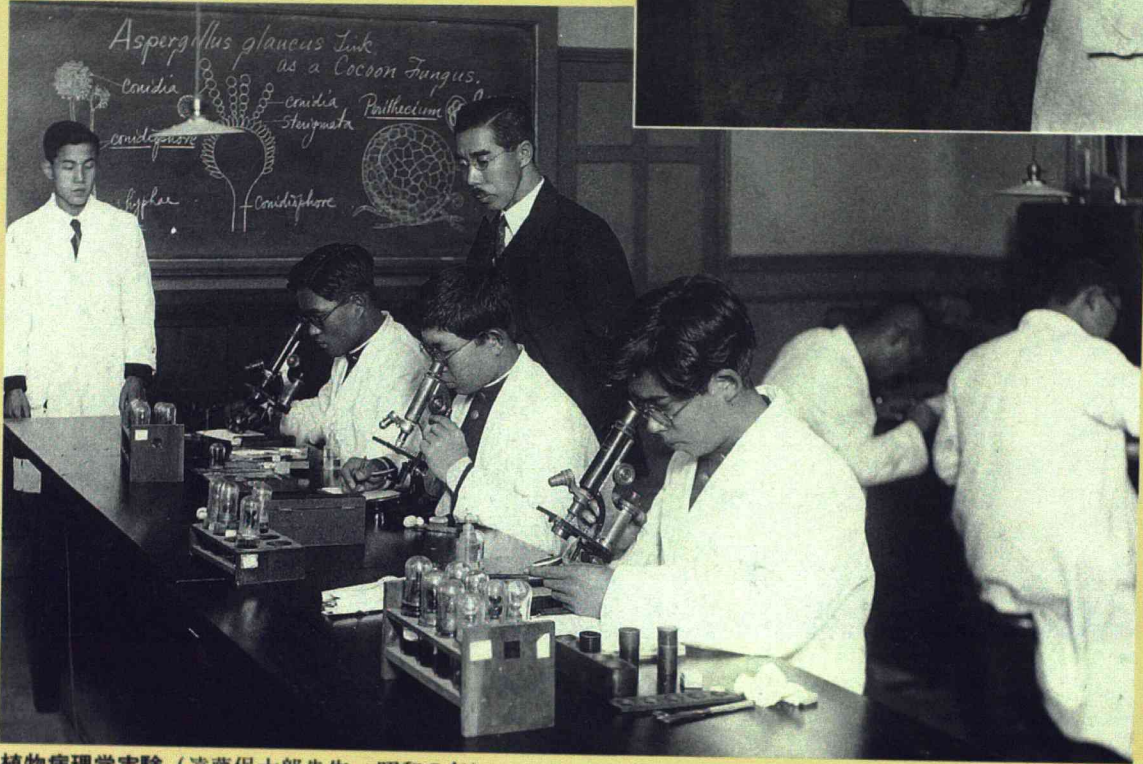
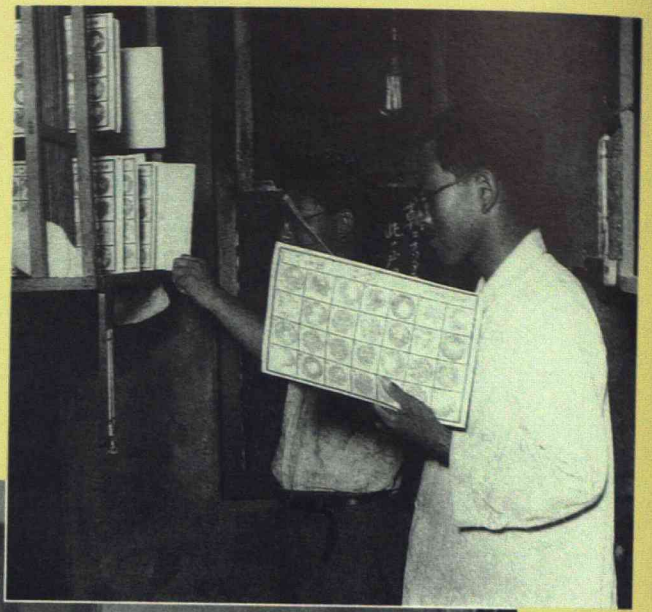


埋薪 クヌギ又はナラの木を用い、炭ガマの原理を利用した1種の暖炉（昭和6年）

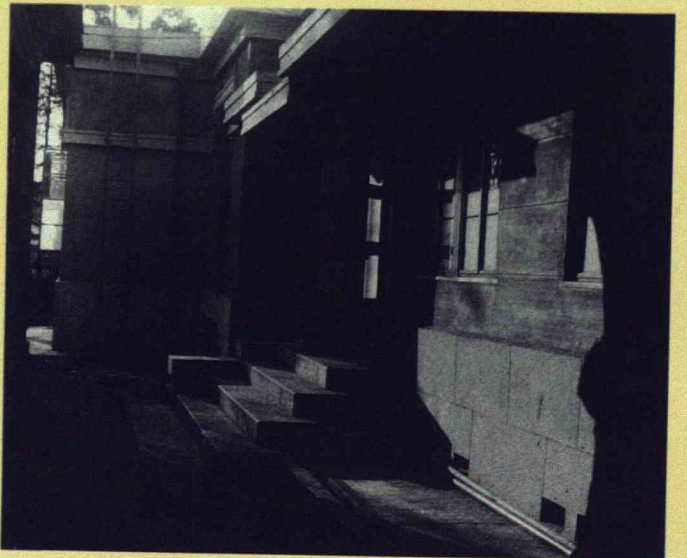


蚕具のガス消毒
蚕病予防対策としてこのような
消毒法が用いられていた
（昭和6年）

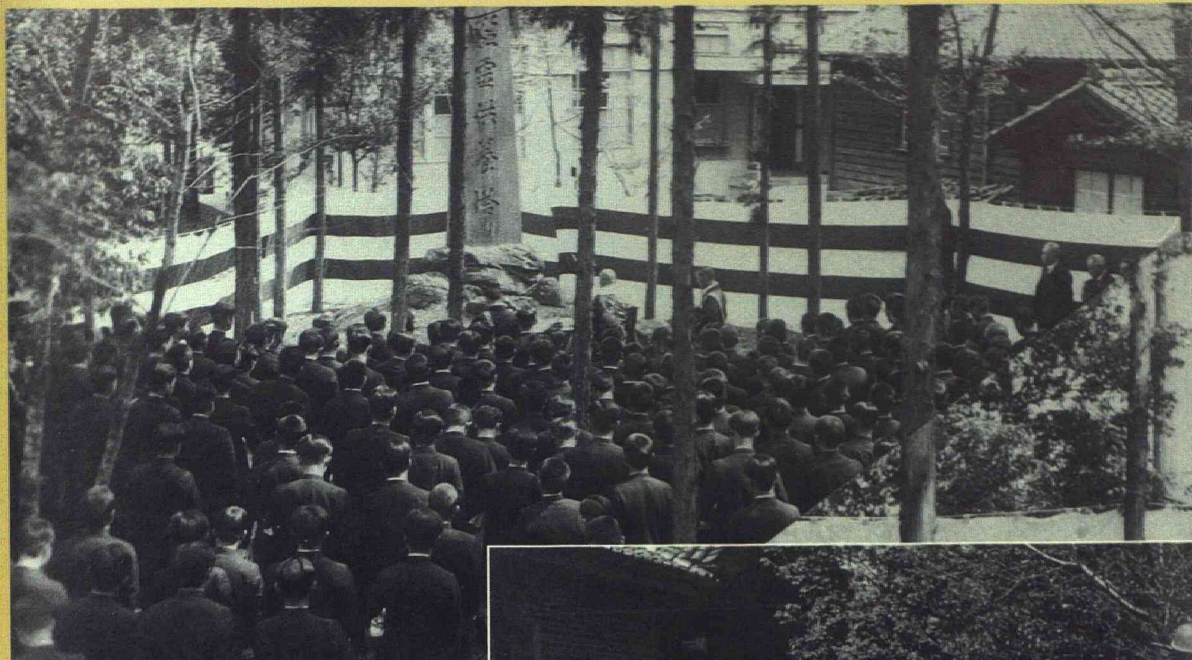
実習用蚕種の催青
(昭和6年)



植物病理学実験 (遠藤保太郎先生・昭和7年)



蚕体生理学研究室
(蒲生研究室・昭和13年頃)



蚕霊供養塔と供養祭（昭和13年頃）



実習前の蚕具の洗滌（昭和13年）



実習前の蚕室の洗滌（昭和13年）



蚕卵の塩酸処理（昭和13年）



養蚕実習中の休憩の一コマ（昭和13年）



製米実習 座繰機（昭和13年）



養蚕科27回卒業記念 校友会歌「大いなるかな浅間山」の作詩者加子三郎氏もこのクラスである（昭和15年）

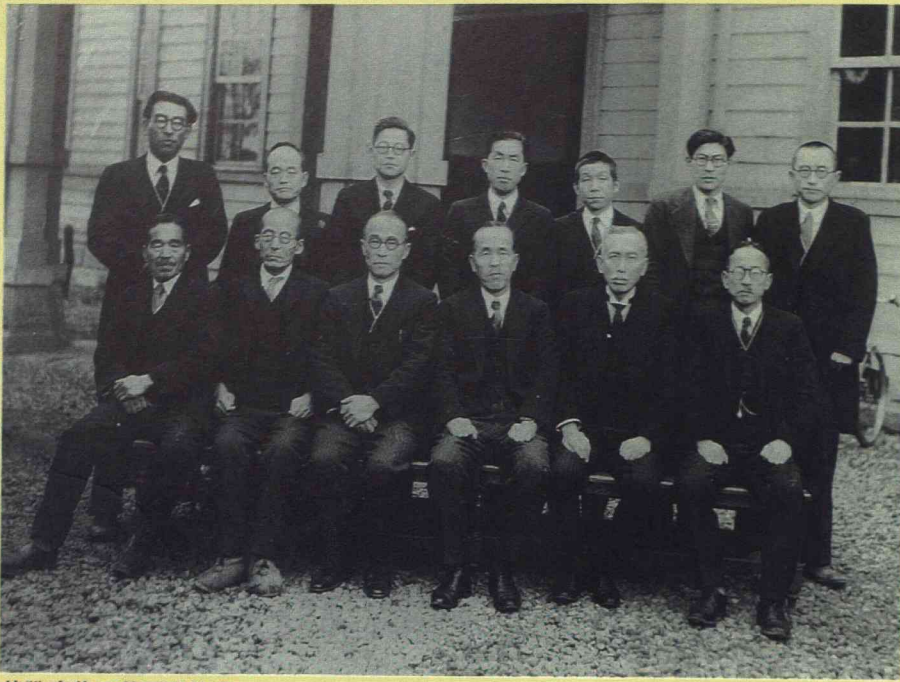
遠藤保太郎先生を送る養蚕科部員一同（昭和16年）



戦時下の緊急事情により
昭和19年〜20年の間、養蚕科と
製糸科が併合し、蚕糸科となり
新たに繊維農業科が創設された。

昭和二十二年〜平成二年

昭和21年に養蚕科が復活。
昭和24年に信州大学繊維学部が発足、
養蚕学科としてスタートした。



終戦直後の養蚕科教官



終戦直後の桑園実習
再び実習が復活した
(昭和23年)

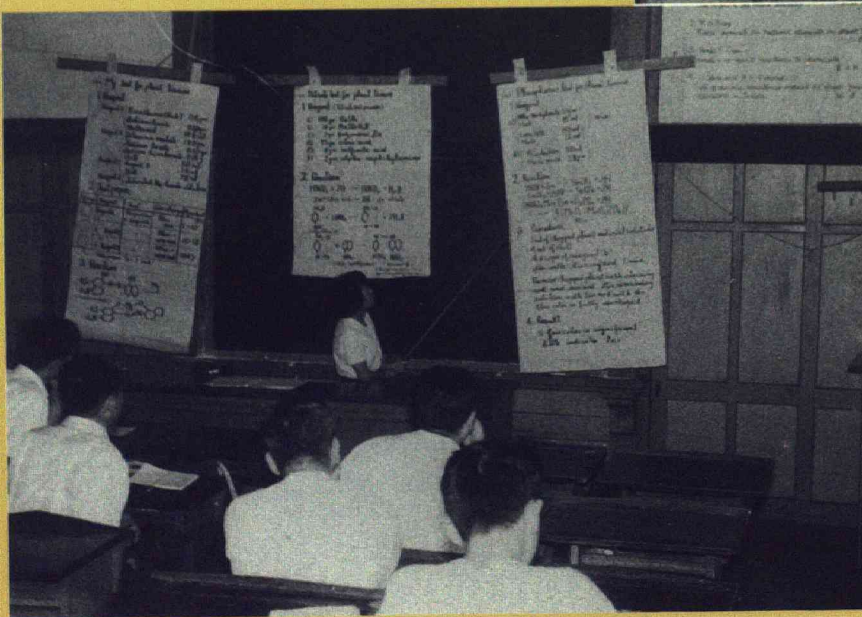


養蚕実習終了後のコンパ
秋和鉦泉
(昭和23年)



昭和30年の養蚕学科教職員一同

原蚕飼育実習 交配と採卵
(昭和34年)



養蚕学科コロキウム
(生物学教室・昭和34年)

大変苦しい思い出のひとつにコロキウムがある。日本語も完全に理解できない我々が、辞書と首っぴきで原書を迷訳し、自分の研究発表の如く大見栄を切って発表するものの、聞く人はチンプンカン、それもそのはず話すご本人がわからないのだから仕方ない。
(学蚕8回アルバムより)

畜産学研究室と桑園
(武田晃先生・昭和34年)



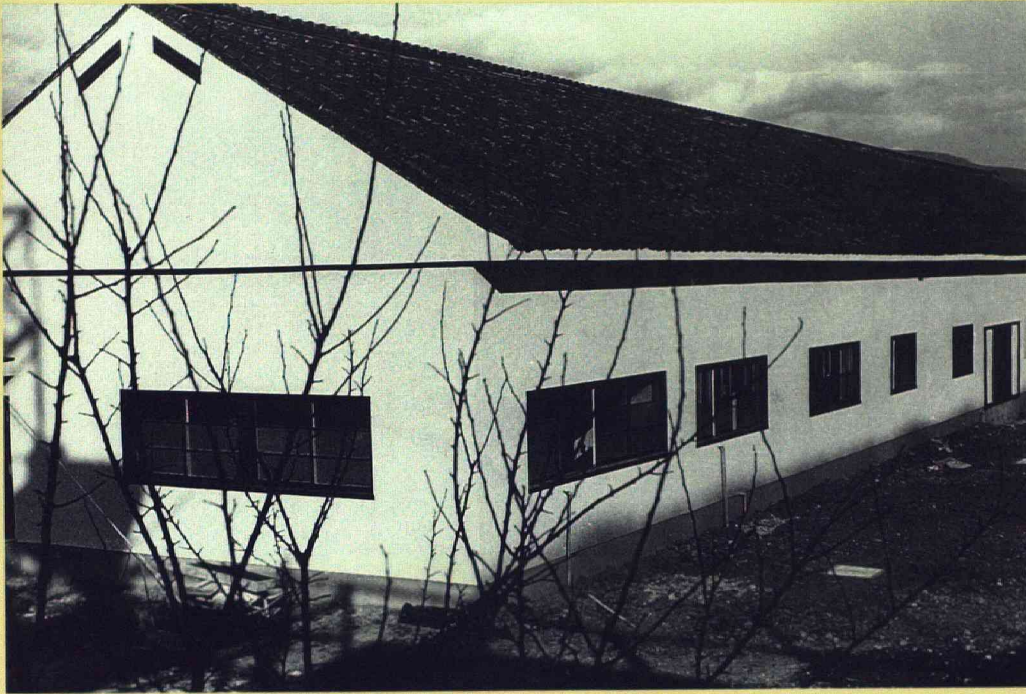
昭和35年頃の蚕種遺伝学研究室



植物生理学・植物病理学研究棟 (昭和37年)



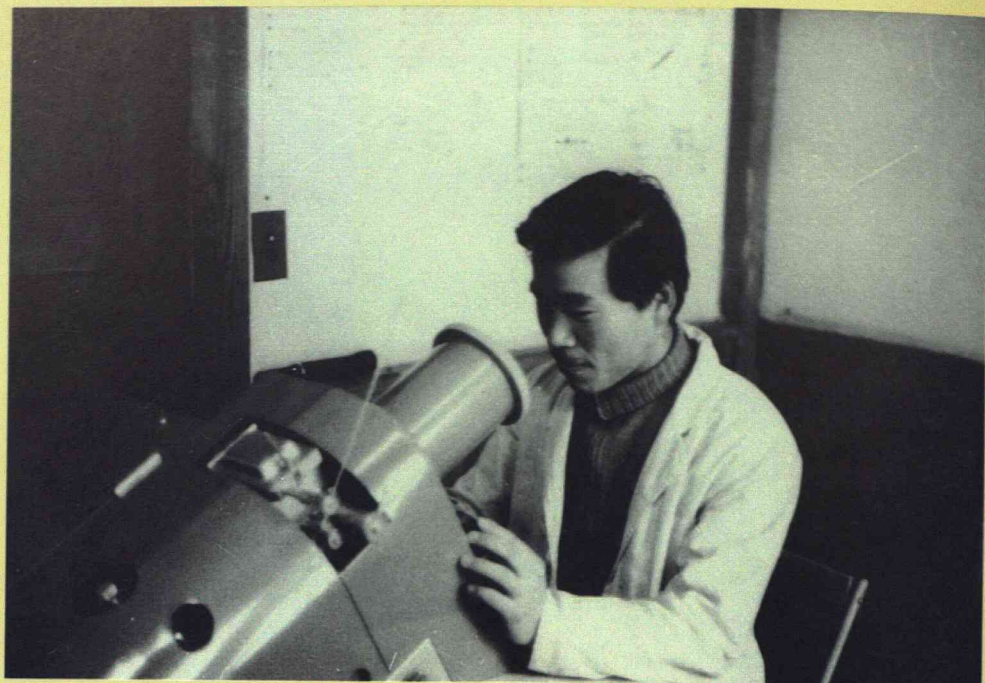
塚田清策先生書
養蚕学科の繊維農学科への改組（昭和36年）



教官用実験蚕室の
農場への移転改築
これ以後、実習は
この蚕室で行うよ
うになった
（昭和41年）



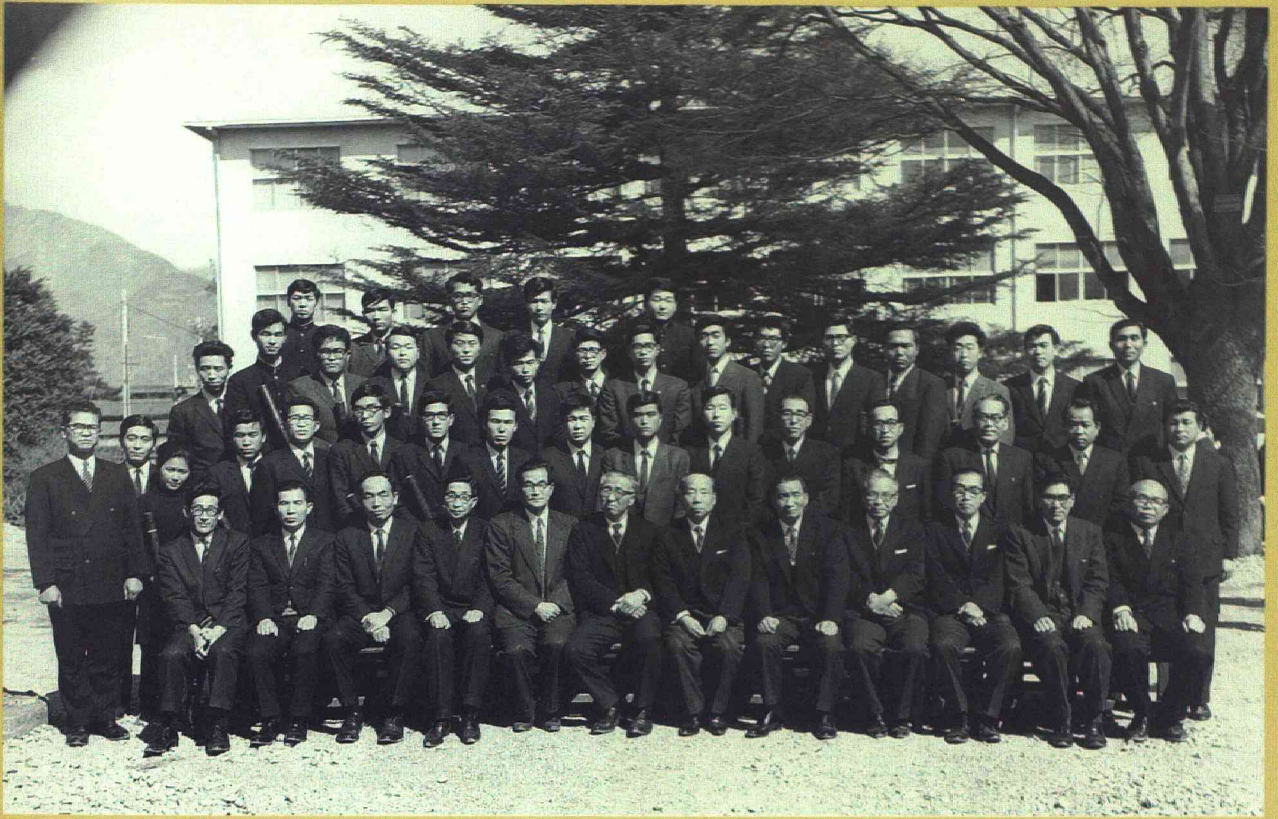
水汚染対策の取組み
この時期前後に環境問題が
クローズアップされ
（昭和42年）



スーパースコープによる蚕ウイルス病の観察（昭和43年）

蚕体病理実験棟のとりこわし 散在していた旧建物が次々と消えていった（昭和44年）





昭和44年学農17回生と教官一同

現在の応用生物科学科の新館（昭和50年竣工）





生命工学実験実習棟（昭和61年竣工）

応用生物科学科の教職員（平成2年）



製糸科の変遷

製糸科(明治43年)―蚕糸科(昭和19年)―製糸科(昭和21年)―製糸学科(昭和24年)―廃科(昭和36年)―これ以降、製糸関係の授業及び研究は当時の紡織工学科・繊維原料科学講座に引継がれ、同科製糸専攻学生は昭和39年3月迄続いて終了した。しかし、同講座は製糸に関する研究面を継承し、現在、繊維システム管理学講座と改称し、製糸に関する基礎的・理論的研究を盛んに行っている。

開校当時〜大正期



製糸工場の煙突(昭和17年)

繭乾燥実習
繭に埋もれた実習生
(大正初期)



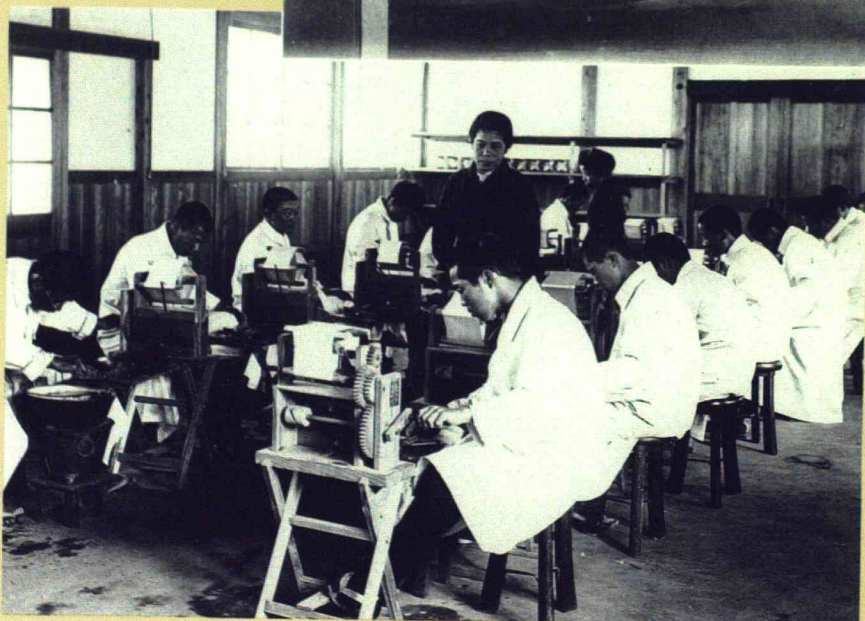
繭乾燥・袋詰め実習(大正初期)



角真綿製造実習（大正初期）



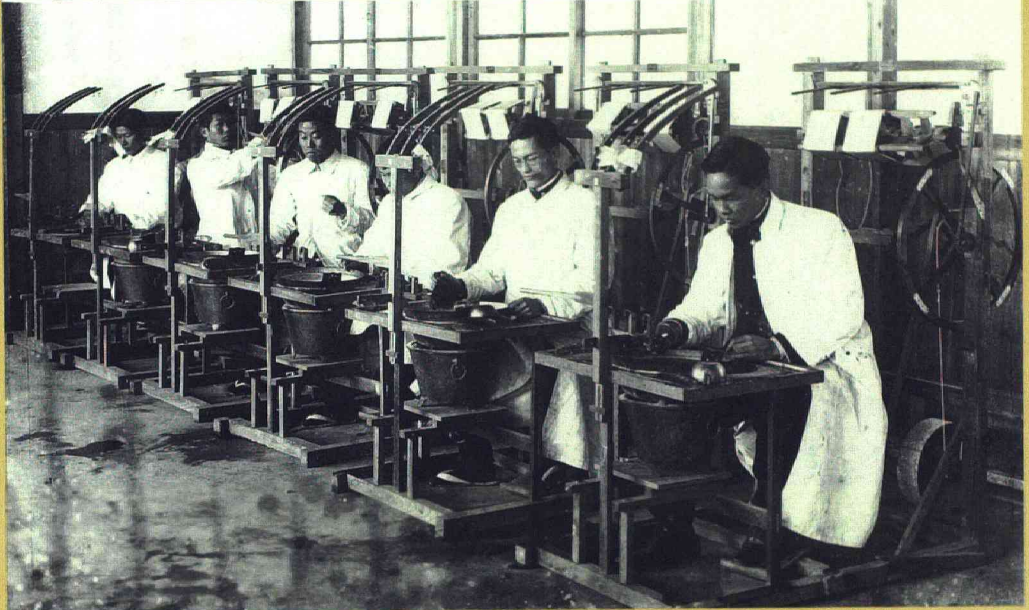
座ぐり風景
（錦絵）



座ぐり実習風景（大正初期）



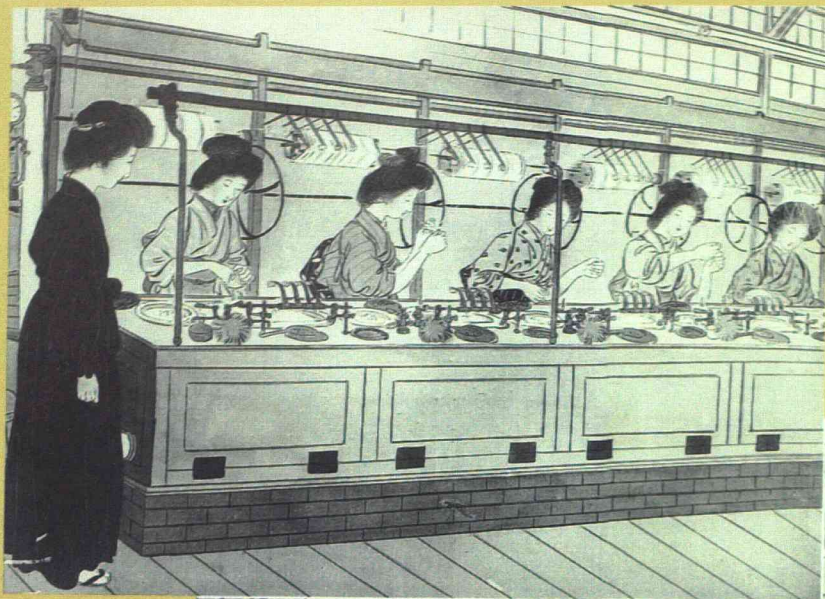
足踏み座ぐり風景
(錦絵)



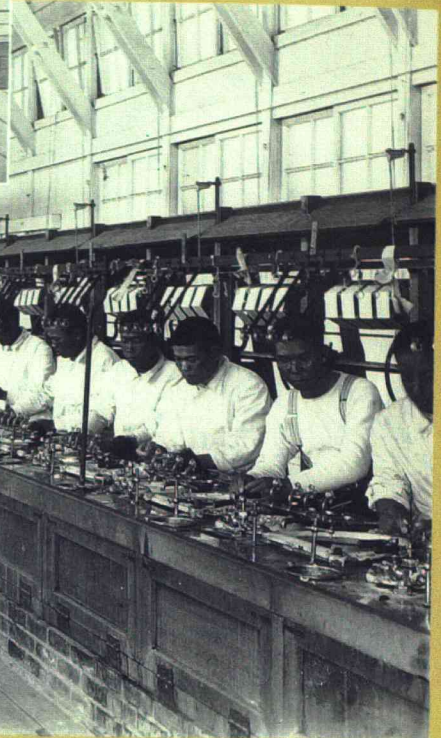
足踏み座ぐり実習 (大正初期)



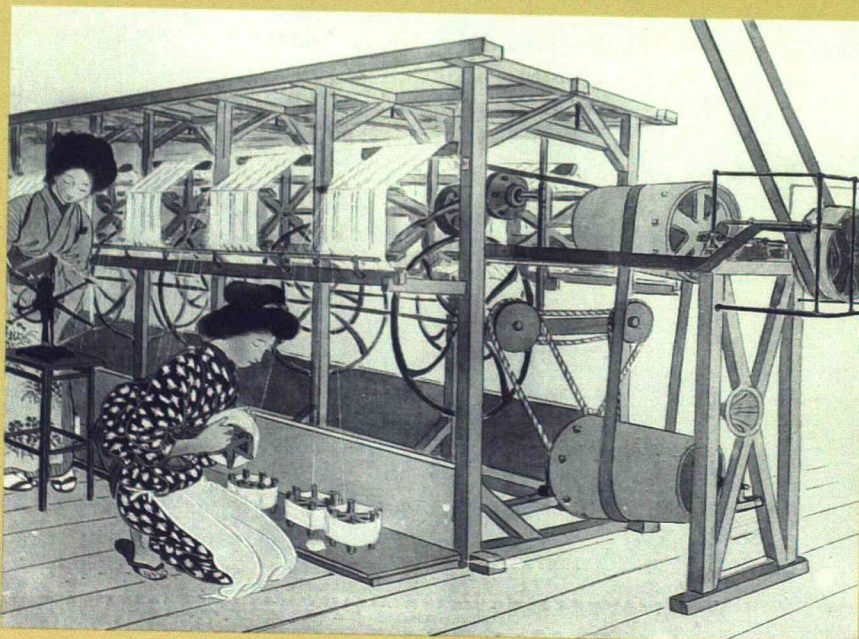
一粒繰試験繰糸実習
(大正初期)



普通機(座繰機)による
繰糸風景
(錦絵)



普通機(座繰機)による繰糸実習
(大正初期)



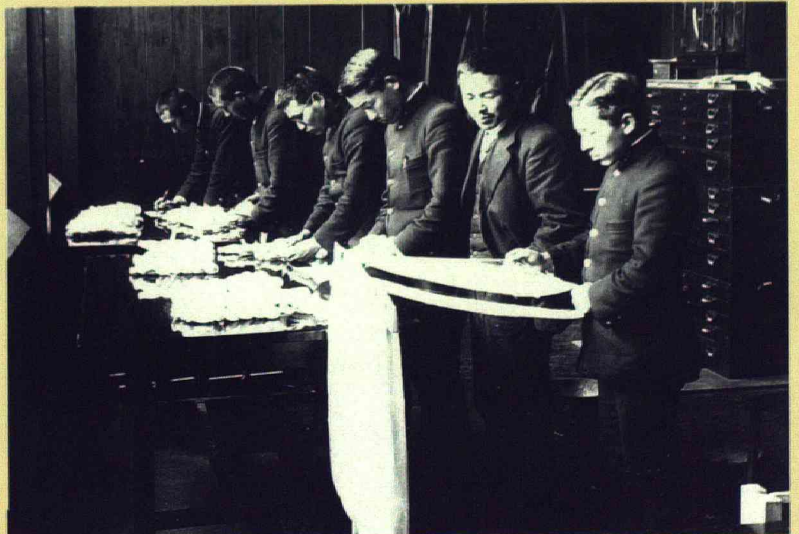
生糸の揚返し(再繰)風景
(錦絵)



生糸の揚返し実習風景
(大正初期)



生糸整理実習
糸捻り・括造り
(大正初期)



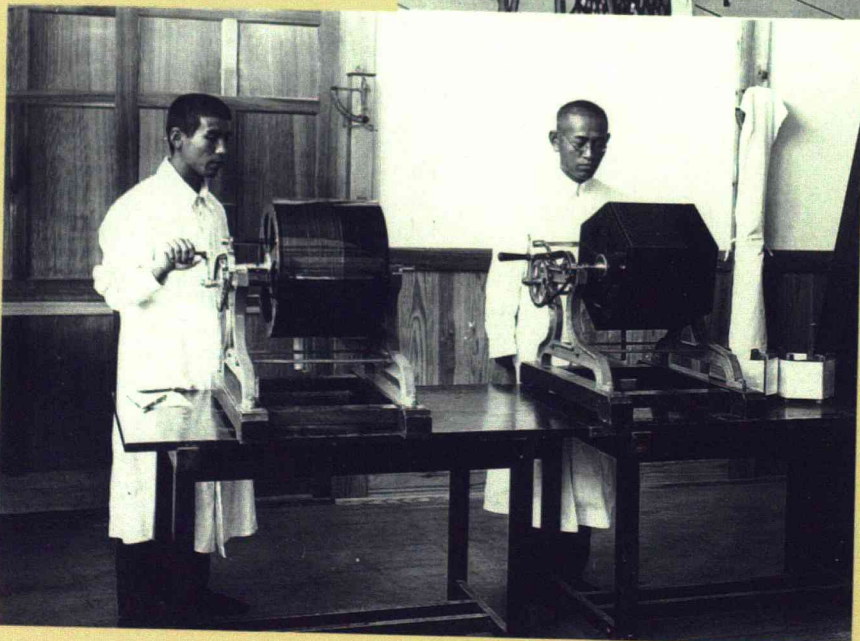
生糸の色沢検査実習
(大正初期)



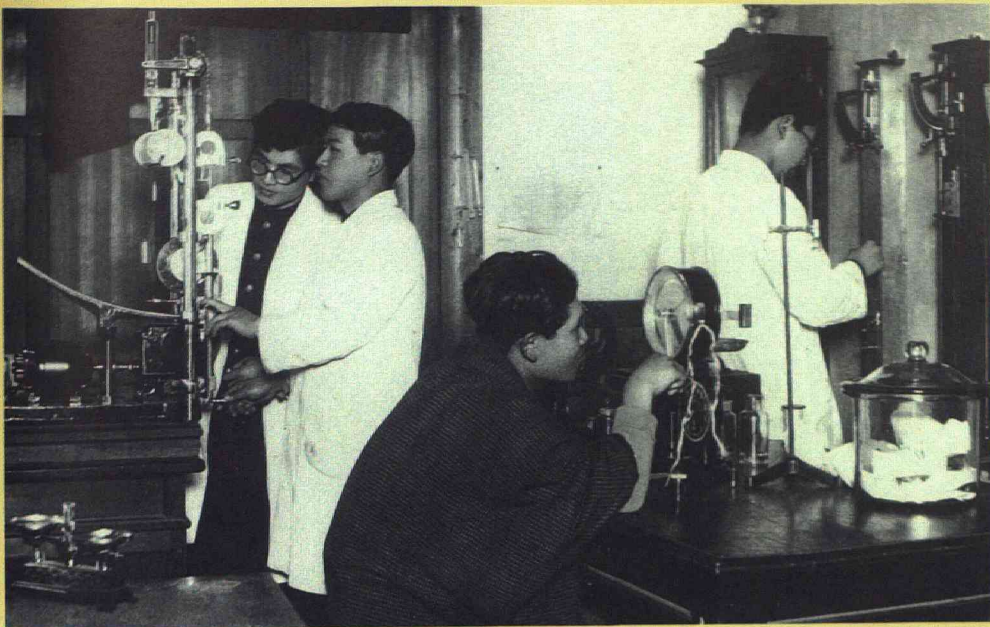
生糸の水分率測定実習
(大正初期)



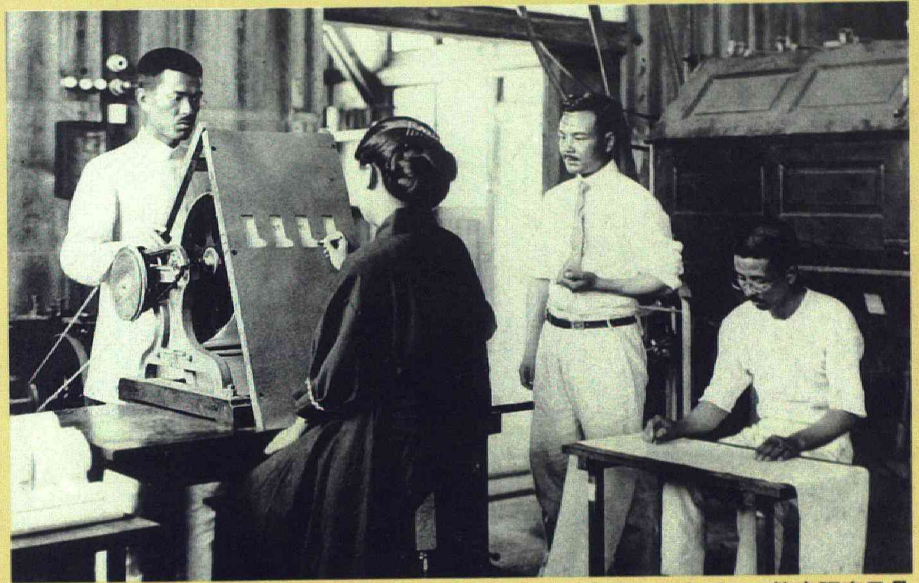
生糸検査風景
(錦絵)



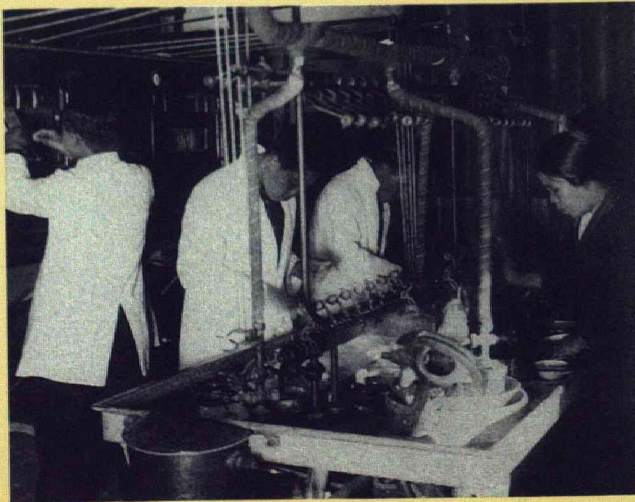
生糸の糸むら及び節の検査実習
(大正初期)



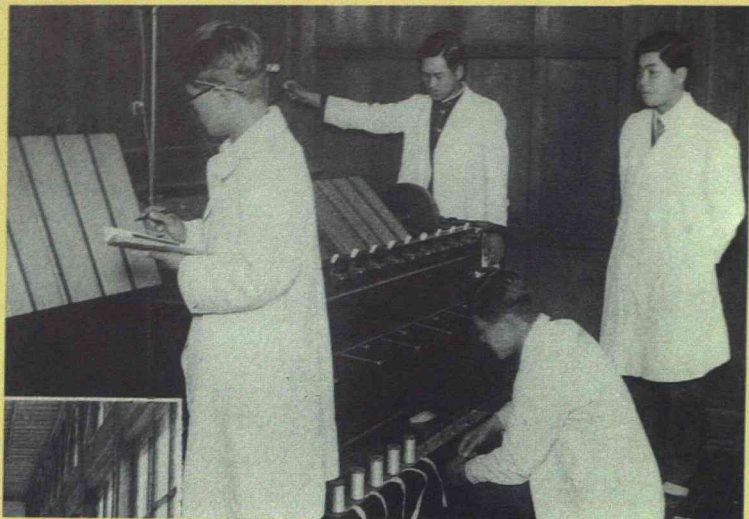
生糸の強伸度測定実験風景
(昭和8年)



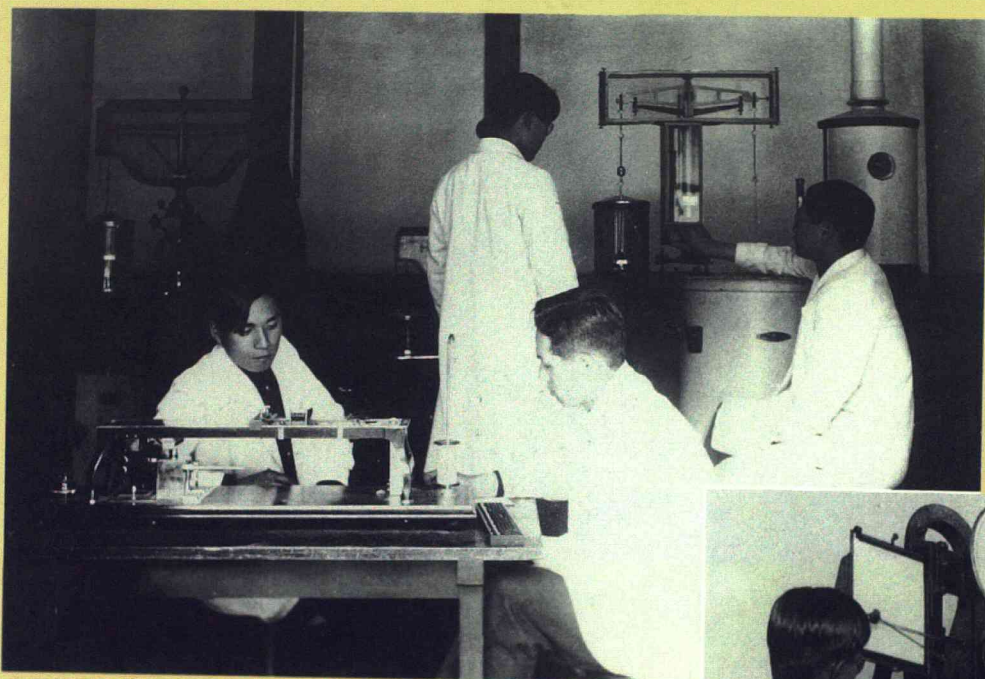
メンタルテストによるタイムスタディー能率研究風景
(林貞三教授・大正9年～昭和2年頃)



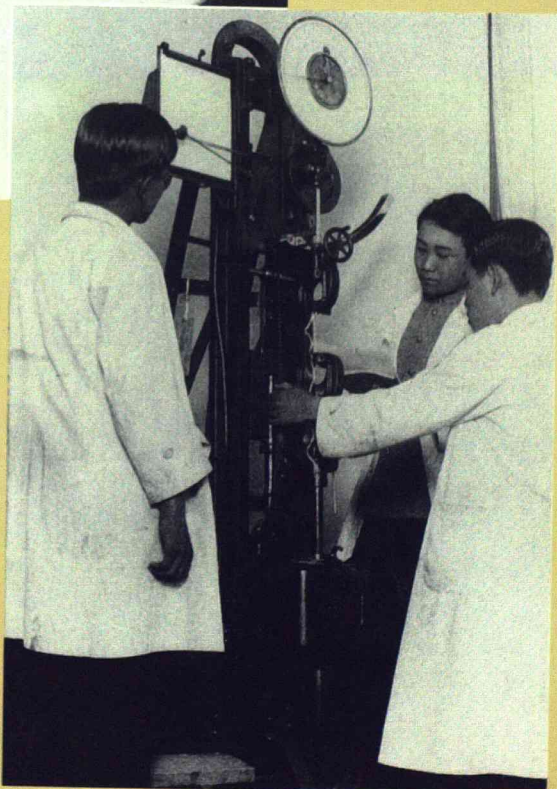
伊太利式繰糸機による繰糸実習
(昭和5年)



生糸のセリプレーン捲取実習
(昭和5年)



生糸抱合試験実習 デュブラン抱合検査機 (昭和8年)

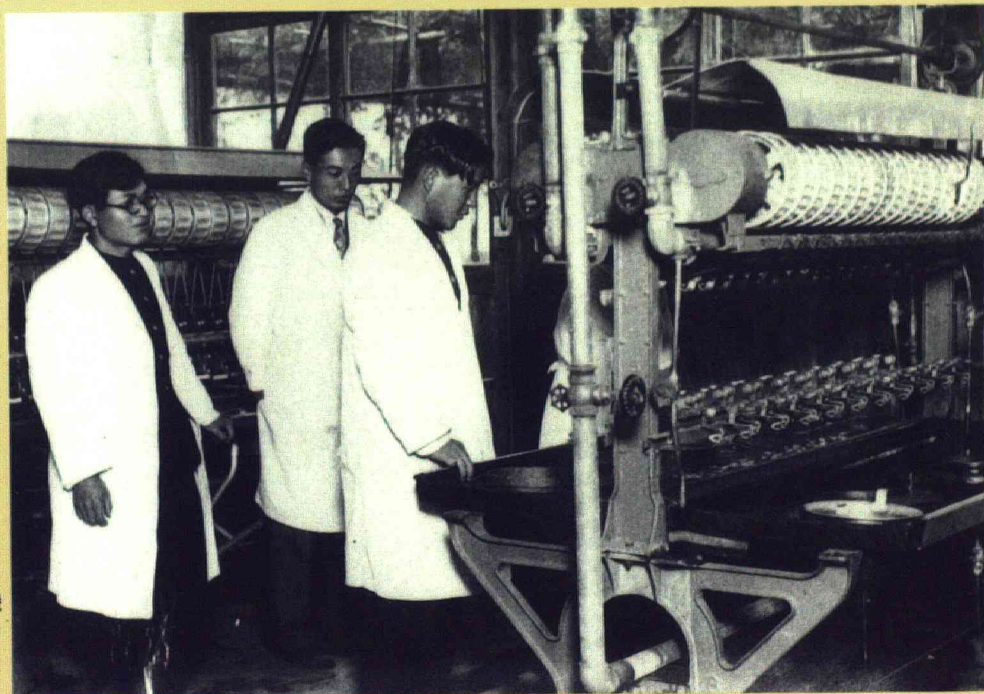


繊維の強伸度測定実験
スコット式セリグラフ
(昭和5年)

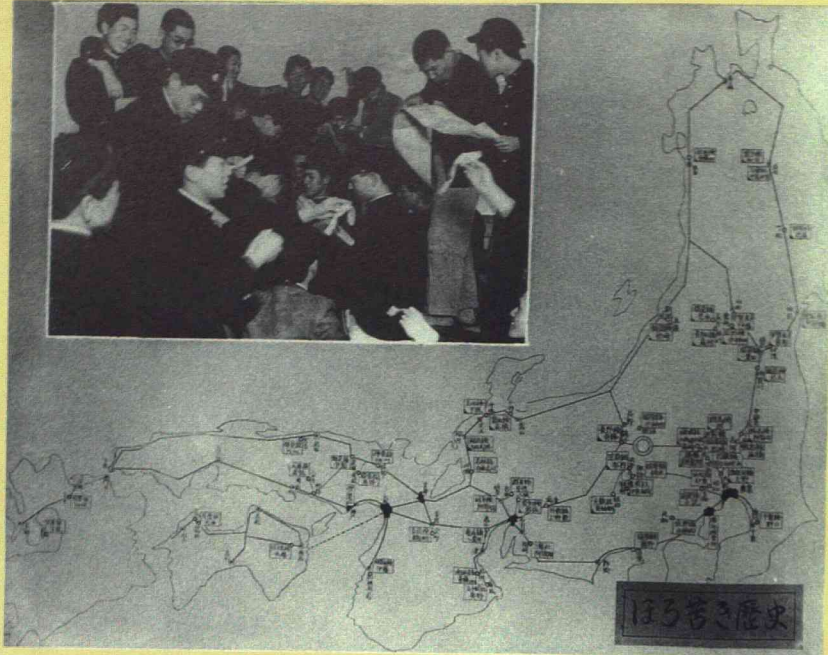
紫外線による菌の蛍光色試験
(昭和8年)



セリシン溶解度測定実験
(昭和9年)

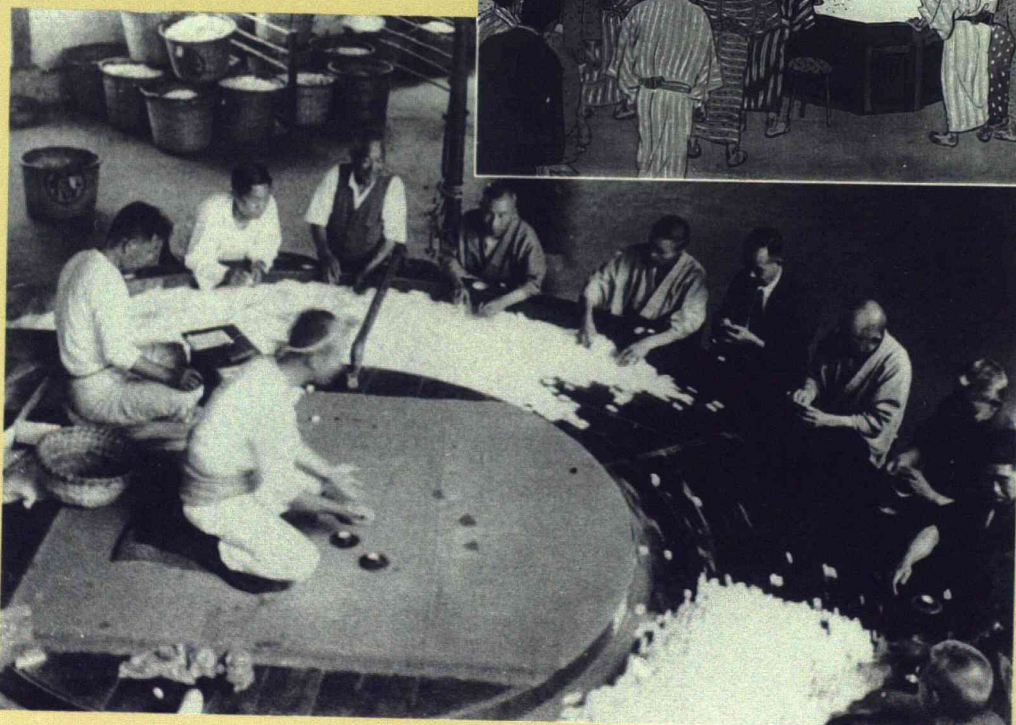


御法川式多條繰糸機
(昭和初期)



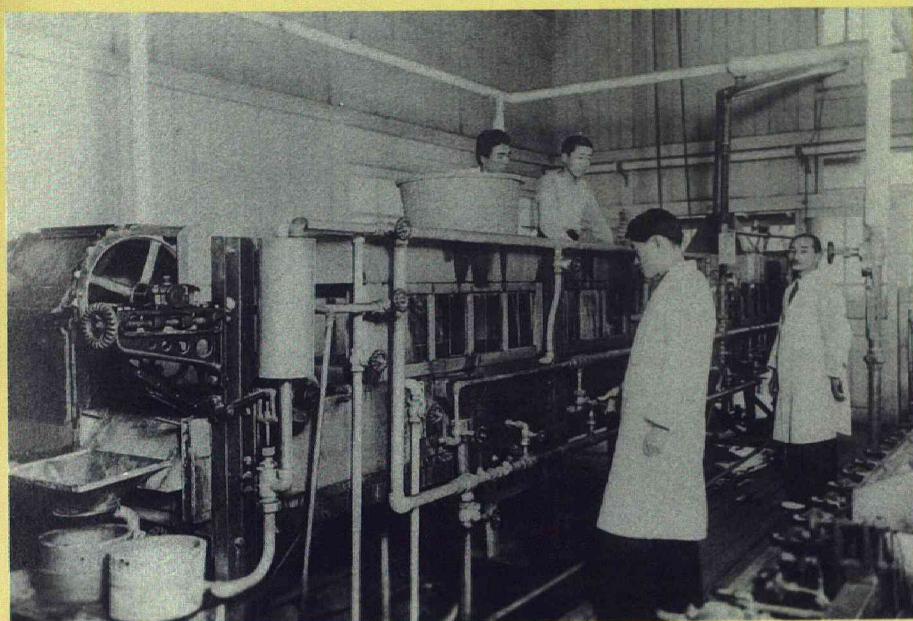
製米科校外実習地の全国分布図
(昭和16年)

繭のセリ市風景
(錦絵)

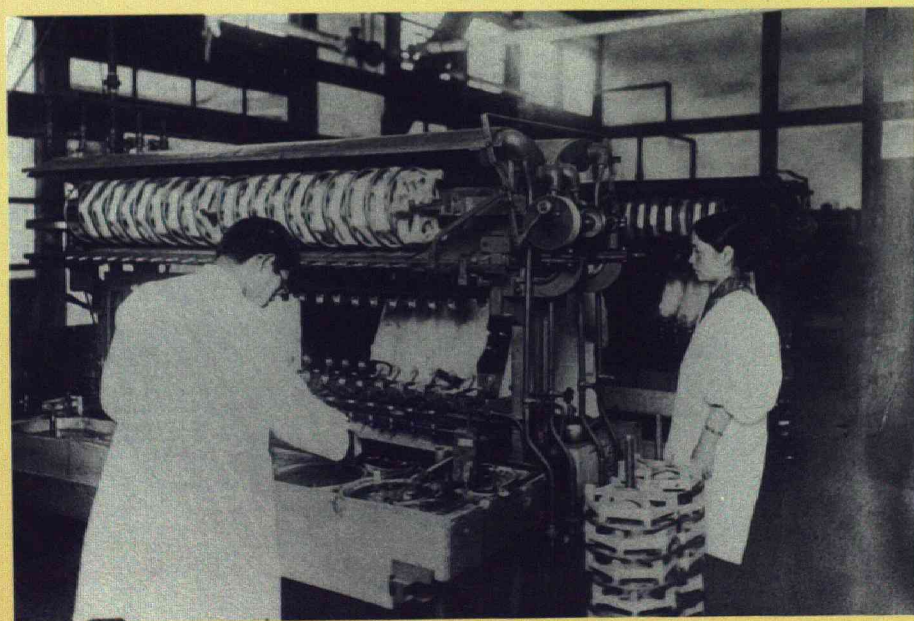


上田繭糸会社の
繭セリ市風景
(昭和10年)

乾繭實習風景 大和三光式乾燥機
(昭和16年)

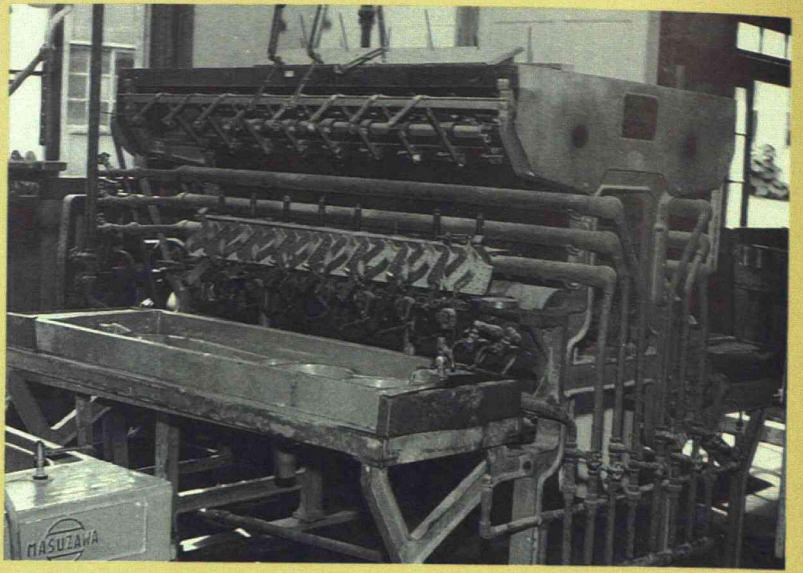


煮繭實習風景 千葉式煮繭機
(昭和15年)



繰糸實習風景
増沢式多條繰糸機
(昭和15年)

長工式燃糸繰糸機
(昭和初期)



物理実験風景
(昭和15年)



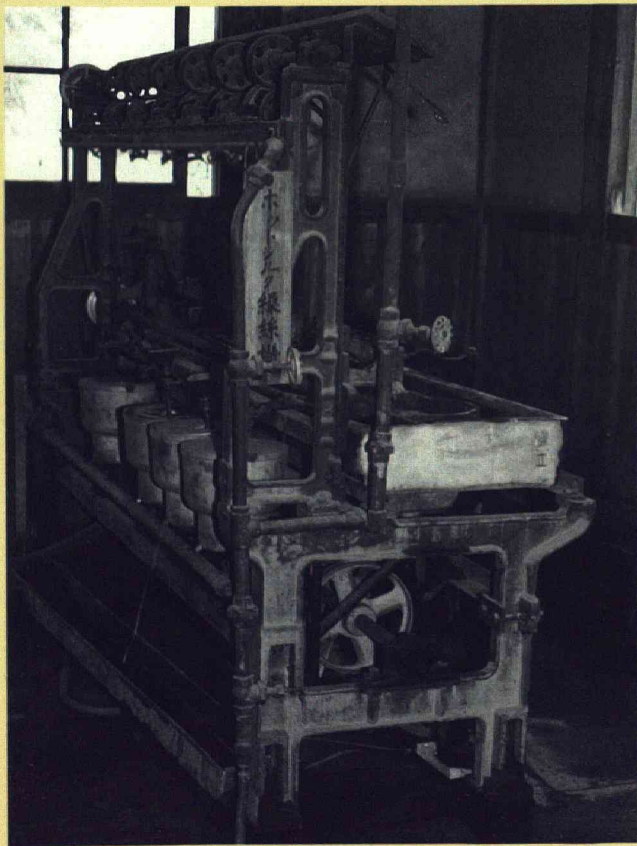
製図実習風景 (昭和16年)

昭和二十一年～昭和三十六年

戦後、製糸は平和産業のシンボルとして期待され、昭和二十年代後半には自動繰糸機も実用期に入った。



戦後初の製糸科卒業生 手にする証書の大きさは本校で最小（昭和21年4月9日）



煙突上から見た製糸工場と研究室の一部（昭和23年7月）

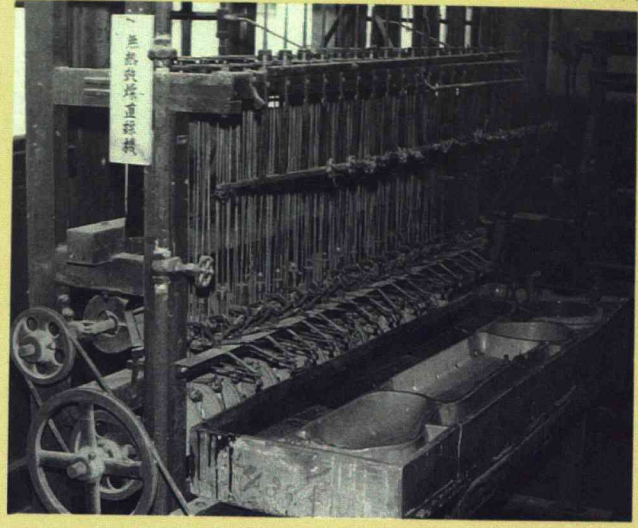
人絹の紡糸巻取方法を応用したポットシルク繰糸機
（湯原諄教授考案・昭和23年頃）



信州大学繊維学部発足
昭和24年から製糸学科となる

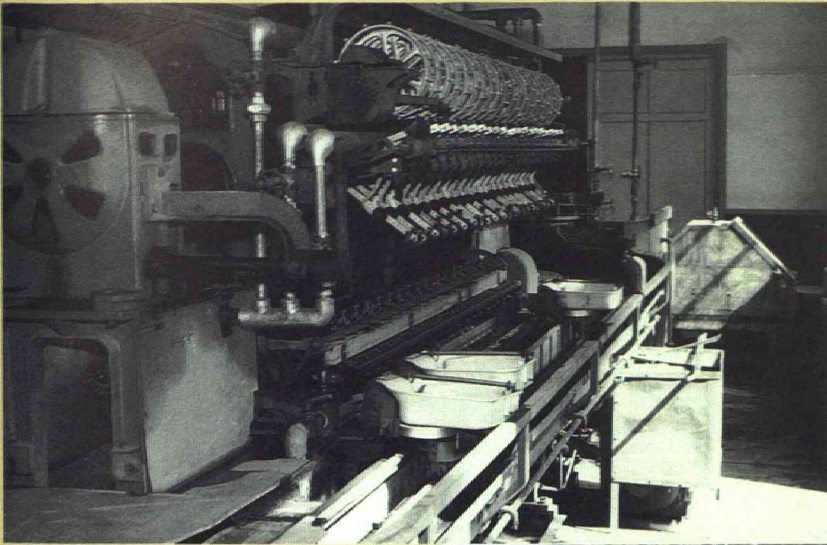
製糸学科1回生 角帽、詰め襟、金ボタン姿が印象的 (昭和24年)

無熱乾燥直繰機 (白井美明助教授考案・昭和24年)

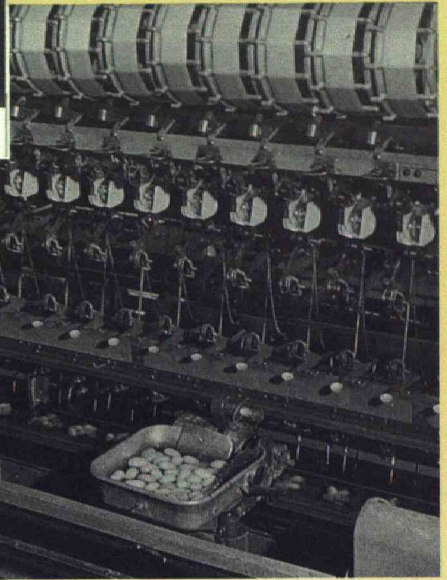


林先生・内藤先生還暦祝賀記念(昭和30.3.31)

大学発足当時の製糸学科教職員



実習用に使用したたま10型自動繰糸機
(昭和32年)



実習用に使用した恵南式自動繰糸機
(昭和32年)



繊維学部機構改革式

当時、人造繊維とくに合成繊維の画期的発展にともない、新時代の趨勢に即応するための体質改善が企てられた。

製糸学科は廃科となり、製糸・紡織学科は繊維機械学科と紡織工学科に改組された。

(昭和36年6月)



製糸科50年の歴史を築いた本学製糸工場 取壊し直前の姿 (昭和62年)



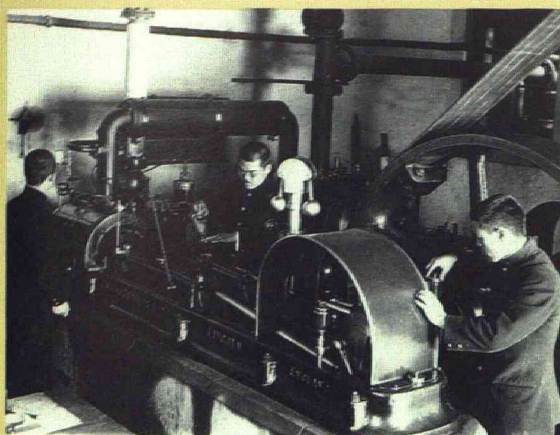
製糸学科最後の頃の
卒業生と教職員 (昭和37年3月)

絹糸紡績科の変遷

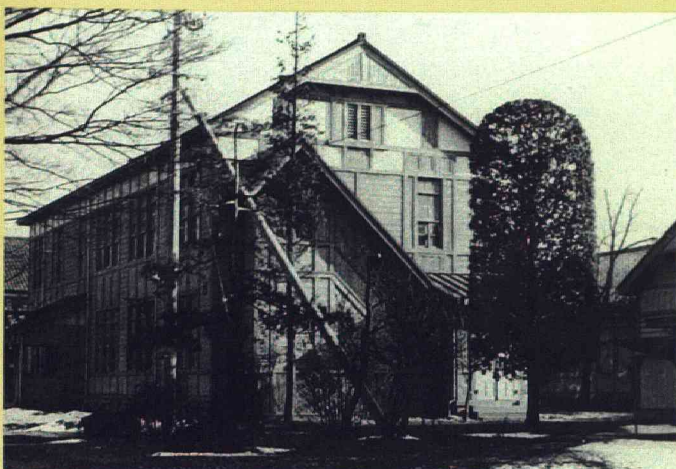
本科は、大正8年に絹糸紡績科として設立され、以来科名を次のように変更しながら現在に至っている。

絹糸紡績科(大正8年) — 絹紡織科(昭和9年) —
紡織科(昭和19年) — 紡織学科(昭和24年) —
紡織工学科(昭和36年) — 繊維工学科(昭和41年) —
繊維システム工学科(昭和61年) — 現在に至る。

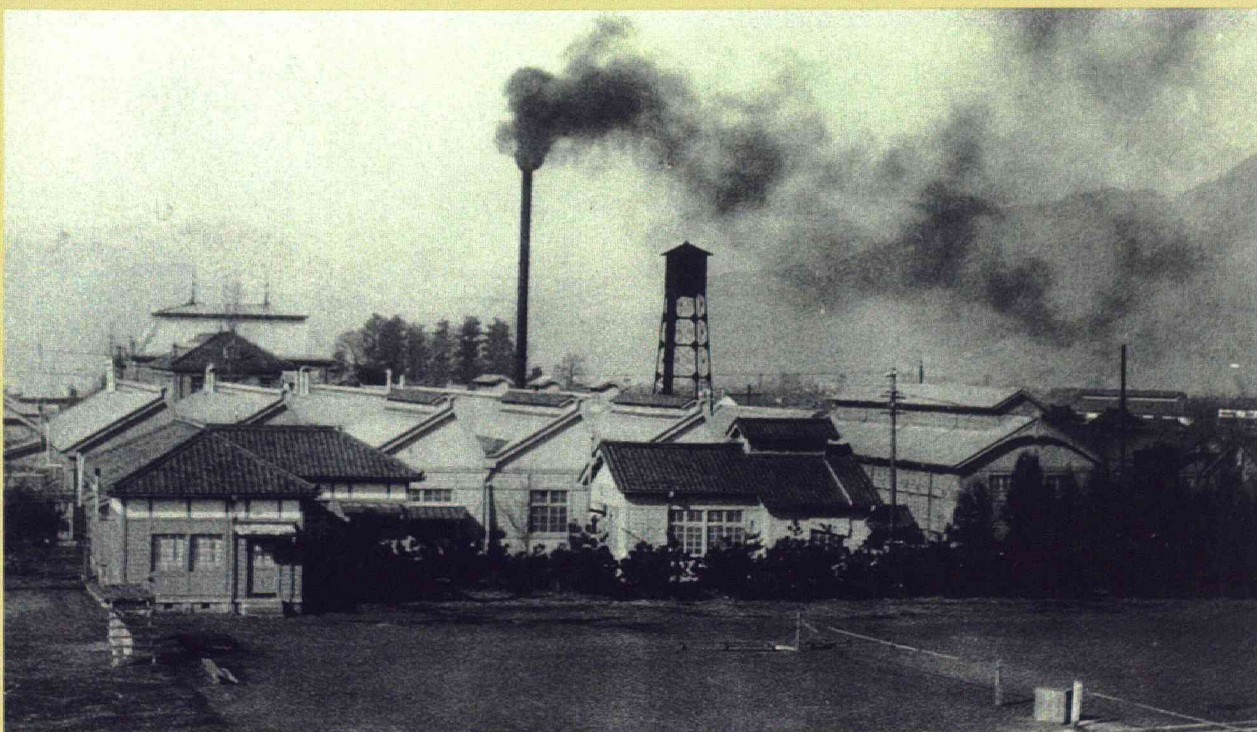
大正初期



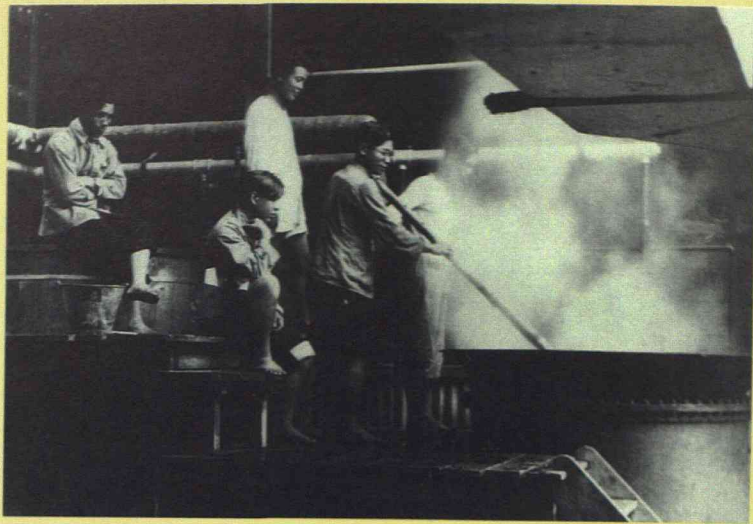
機械実習・蒸気エンジン



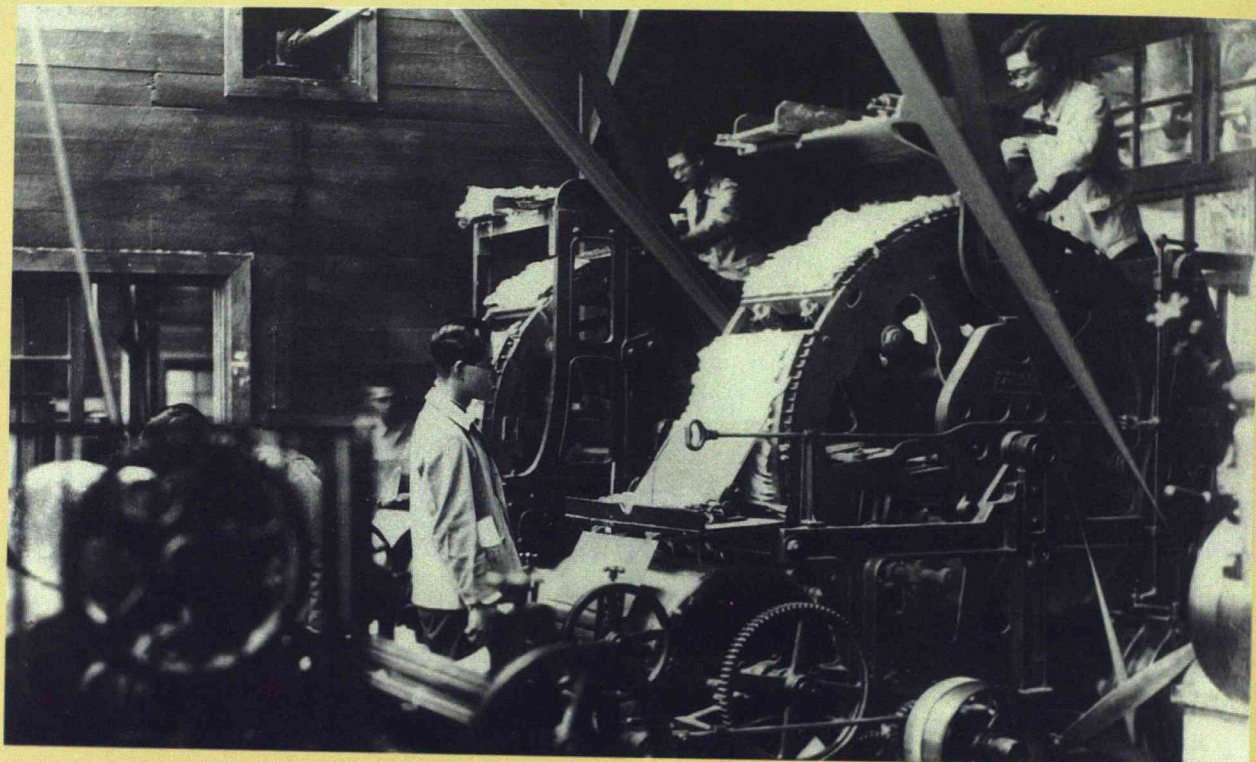
製図教室



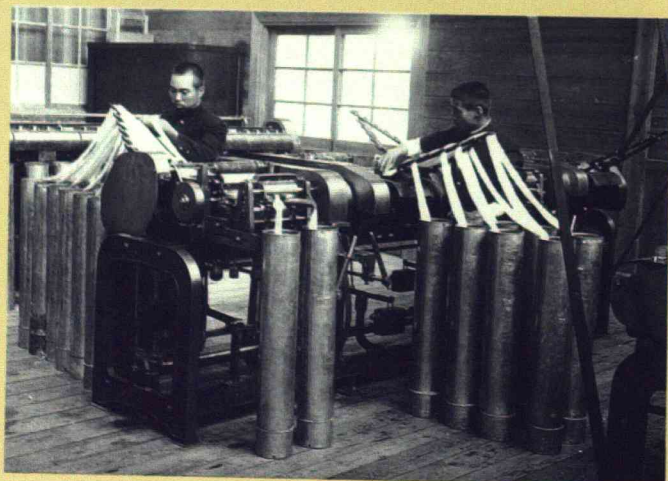
創立当時の絹糸紡績科の建物



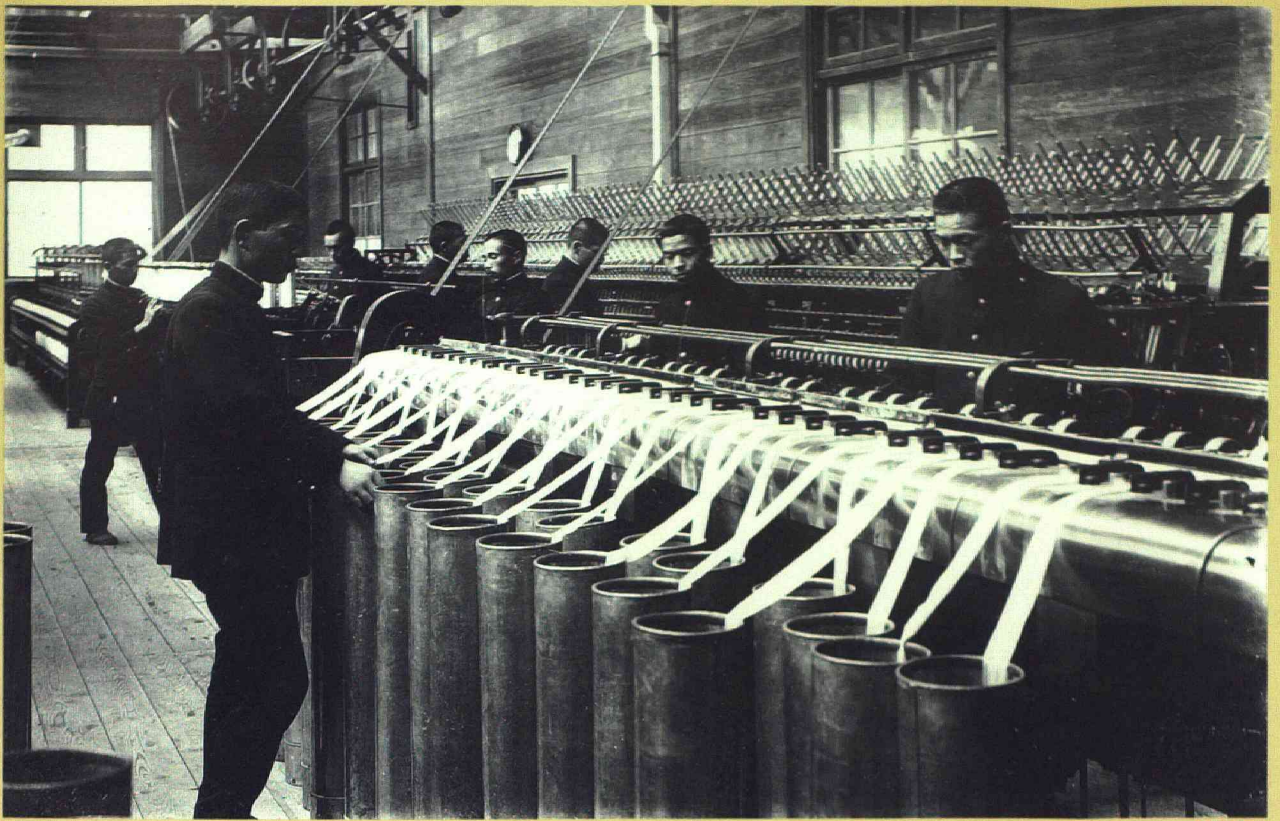
精練工程



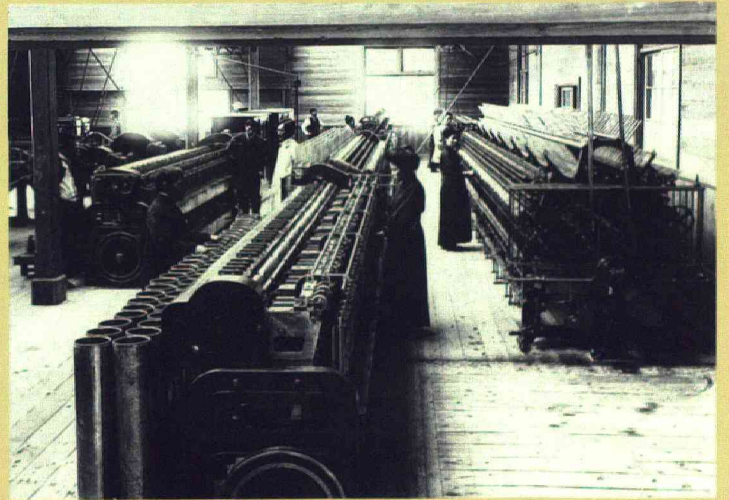
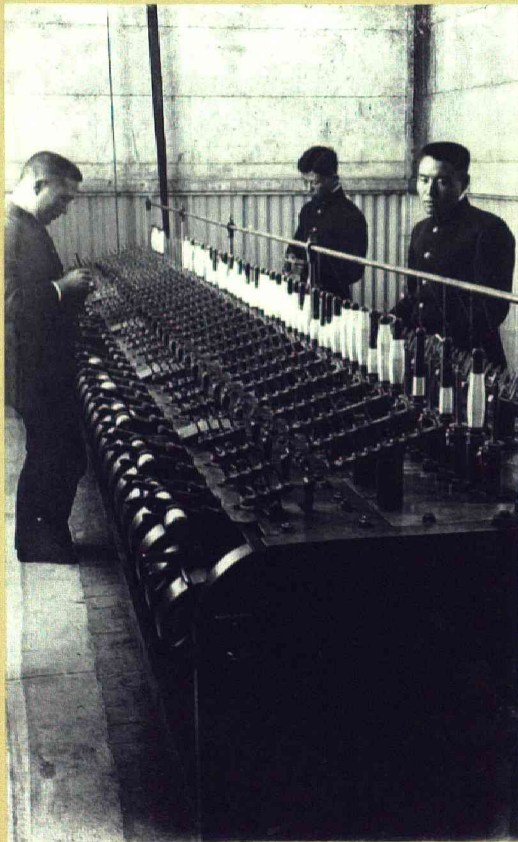
円形梳綿機



練条機

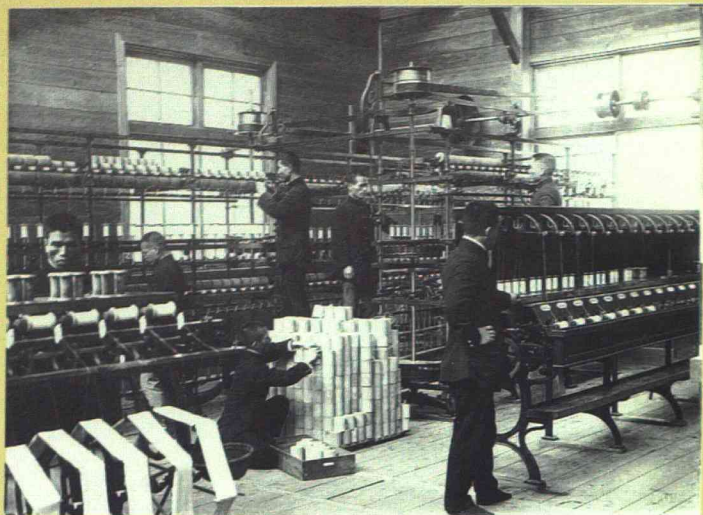


始紡機

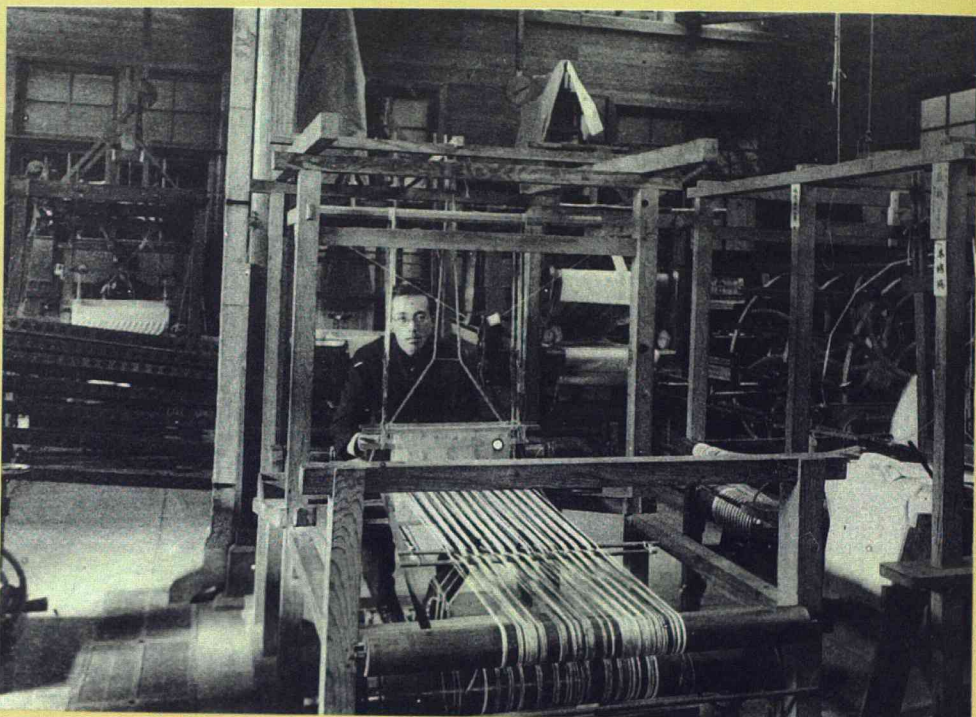


始紡機・精紡機

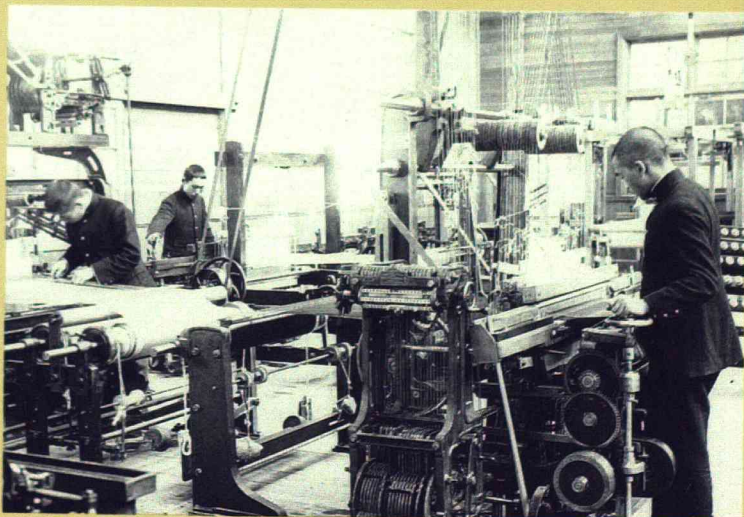
仕上げ工程 ガス焼機



準備工程 合糸・撚糸機



手機織機に取り組む



ドビー付力織機



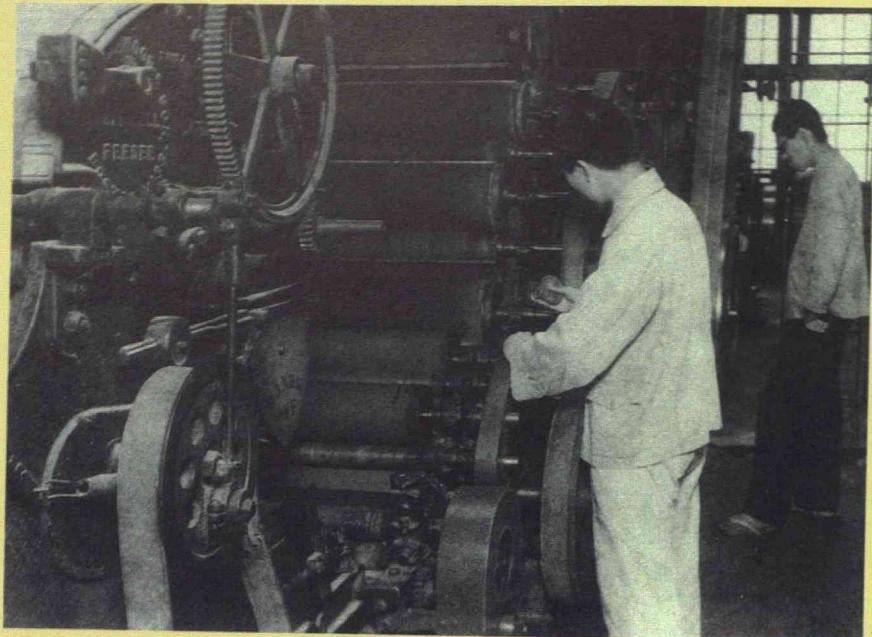
製図実習



物理学実験



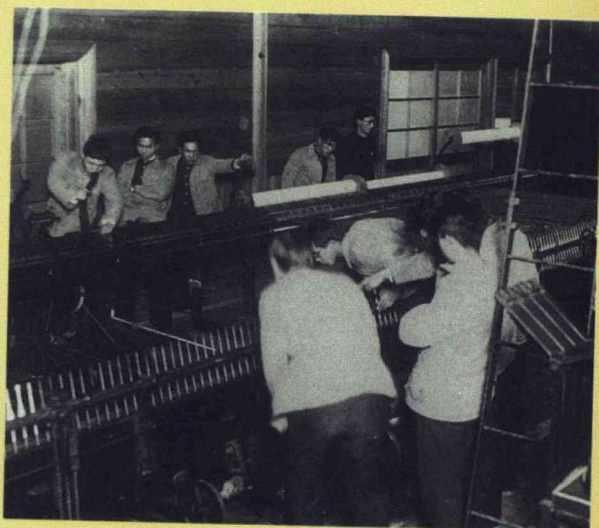
染色実験



紡毛梳綿機の整備



精紡機・合糸機の操作



ミュール精紡機を扱う

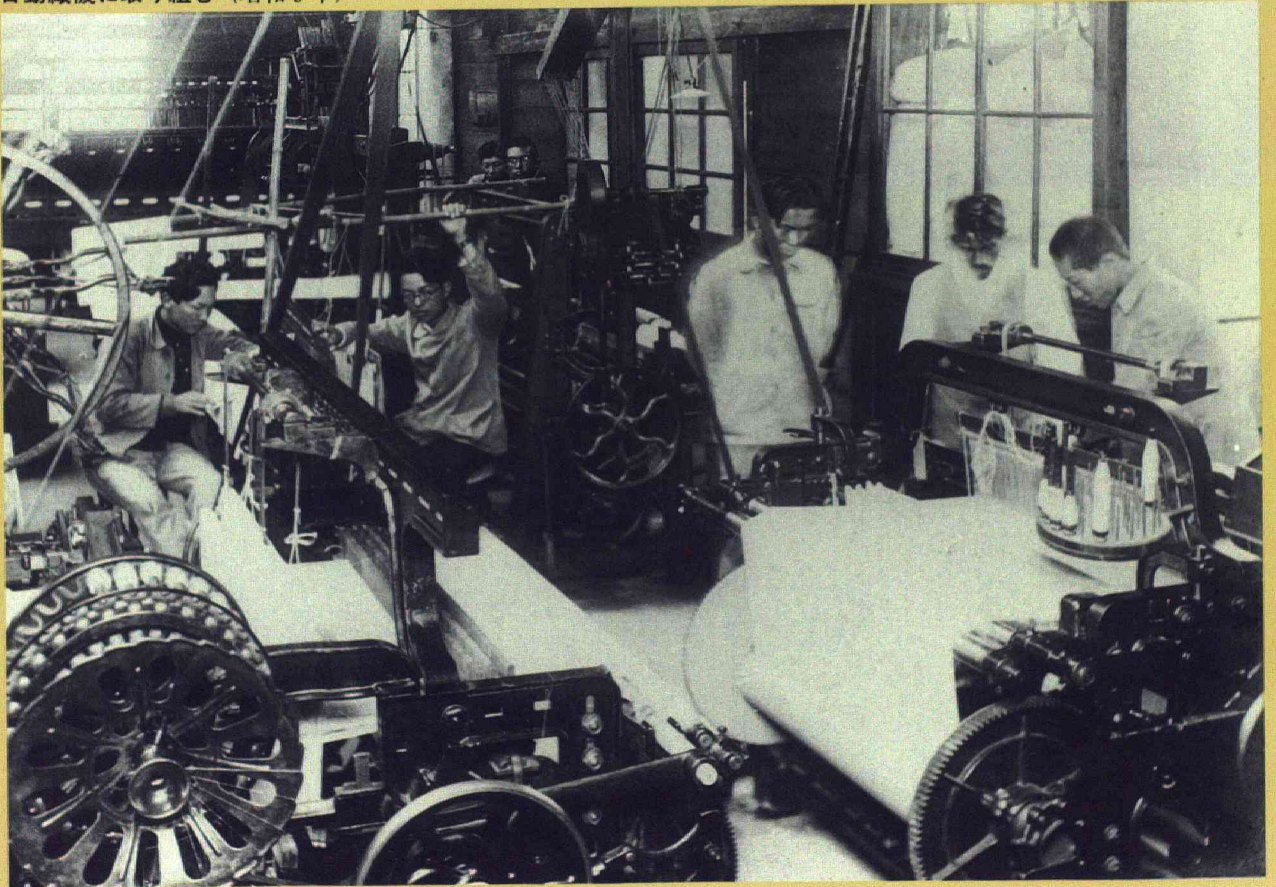


リング精紡機に取り組む



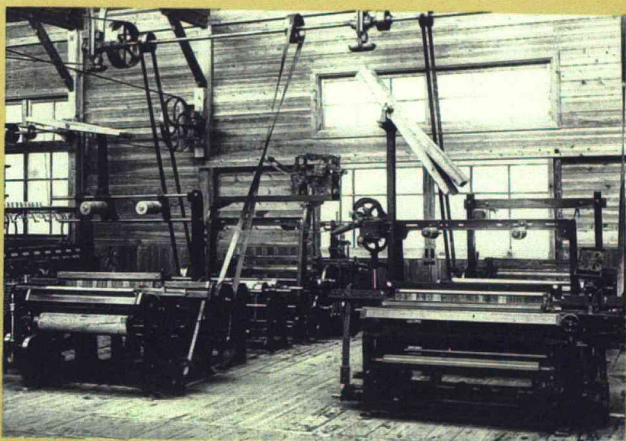
準備工程 整経機 (昭和8年頃)

自動織機に取り組む (昭和9年)

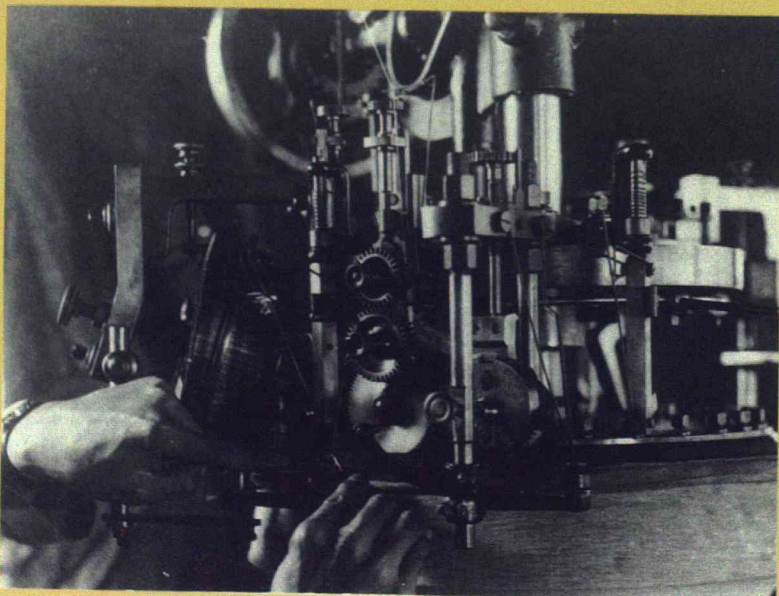




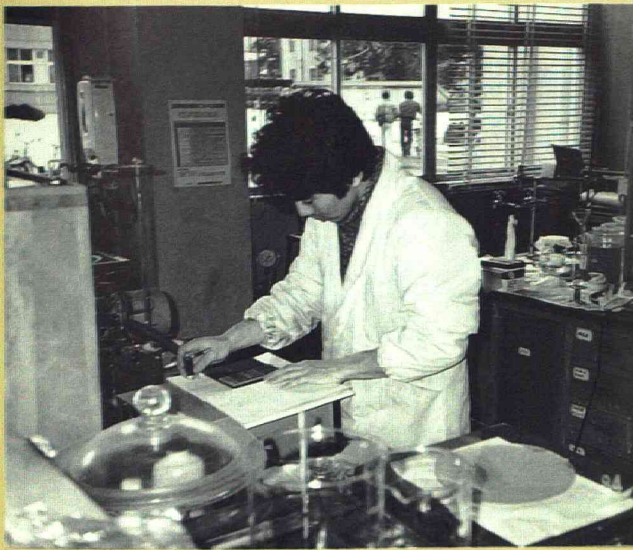
メリヤス工場にて
K式靴下編機の操作
(昭和9年)



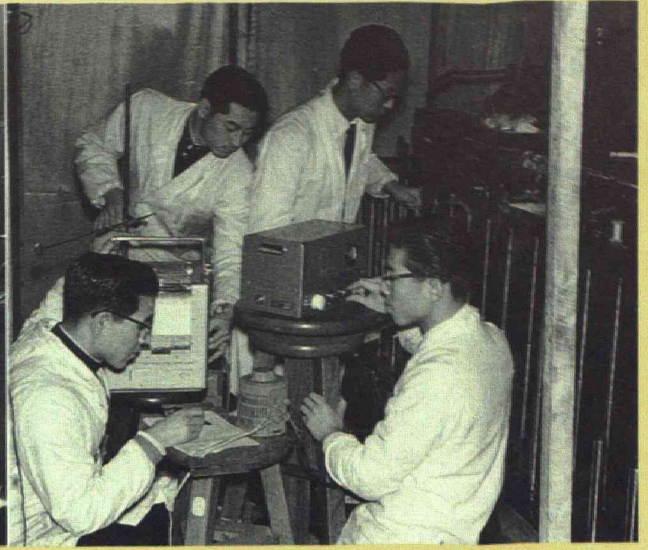
実習用織機工場の一部
(昭和17年)



大躰吊り編機の編立て
(昭和17年)



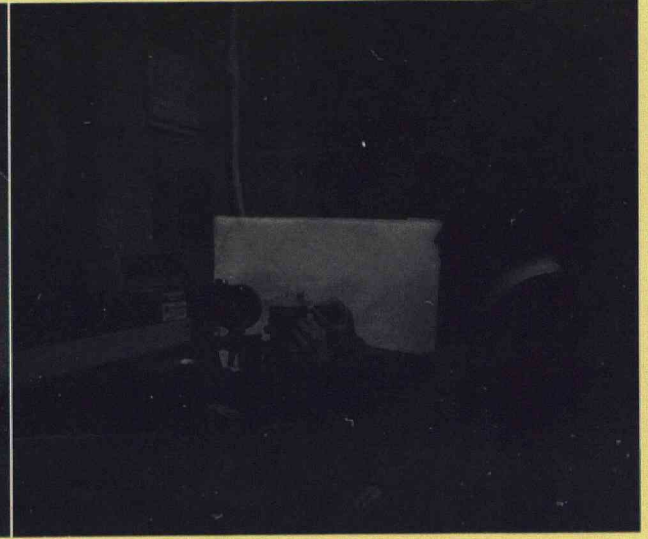
化学分析 (昭和58年)



粗紡機に取り組む (昭和35年)



実験装置の製作 (昭和62年)



光集積回路製作実験 (平成2年)

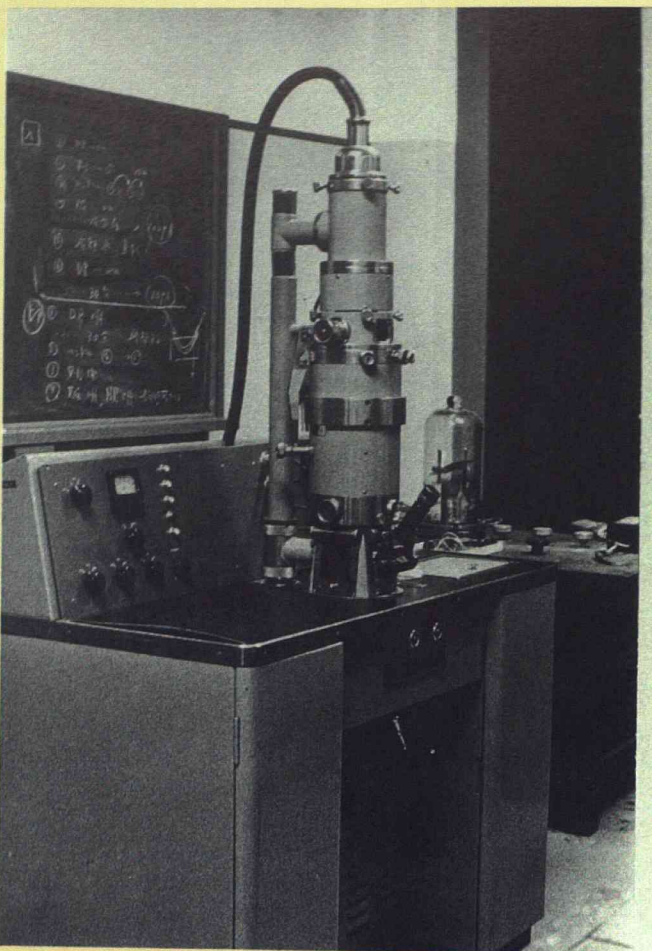


研究室での憩いのひととき

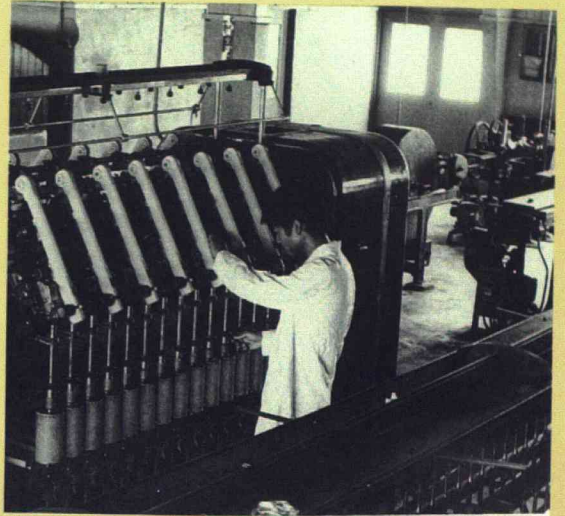


検定用繰糸機

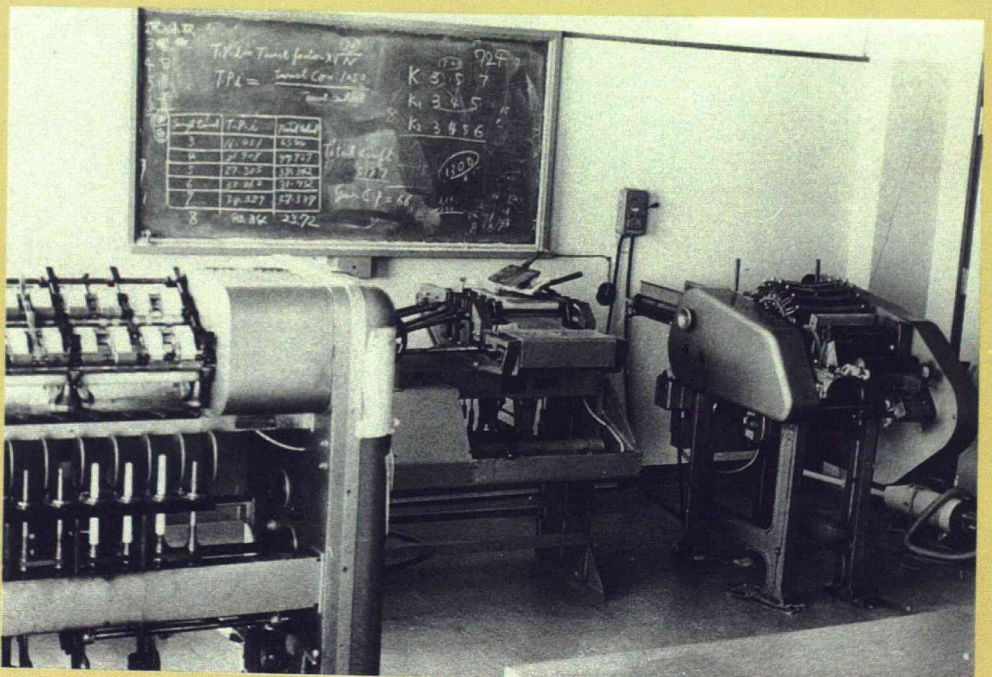
研究機器の移り変わり



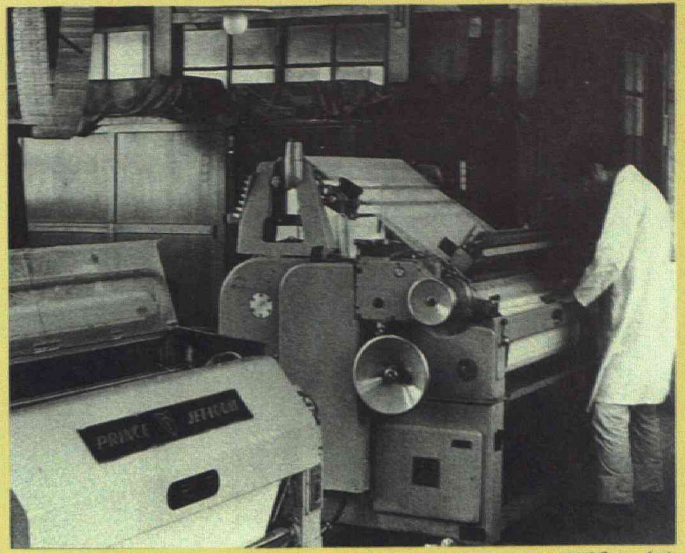
電子顕微鏡 現日本電子(株)2号機 (昭和27年)



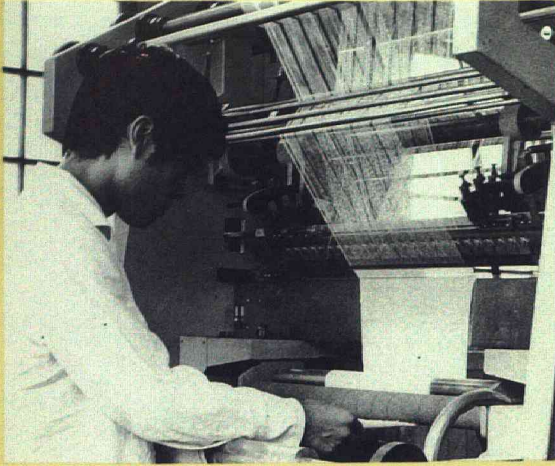
空気精紡機 (昭和37年)



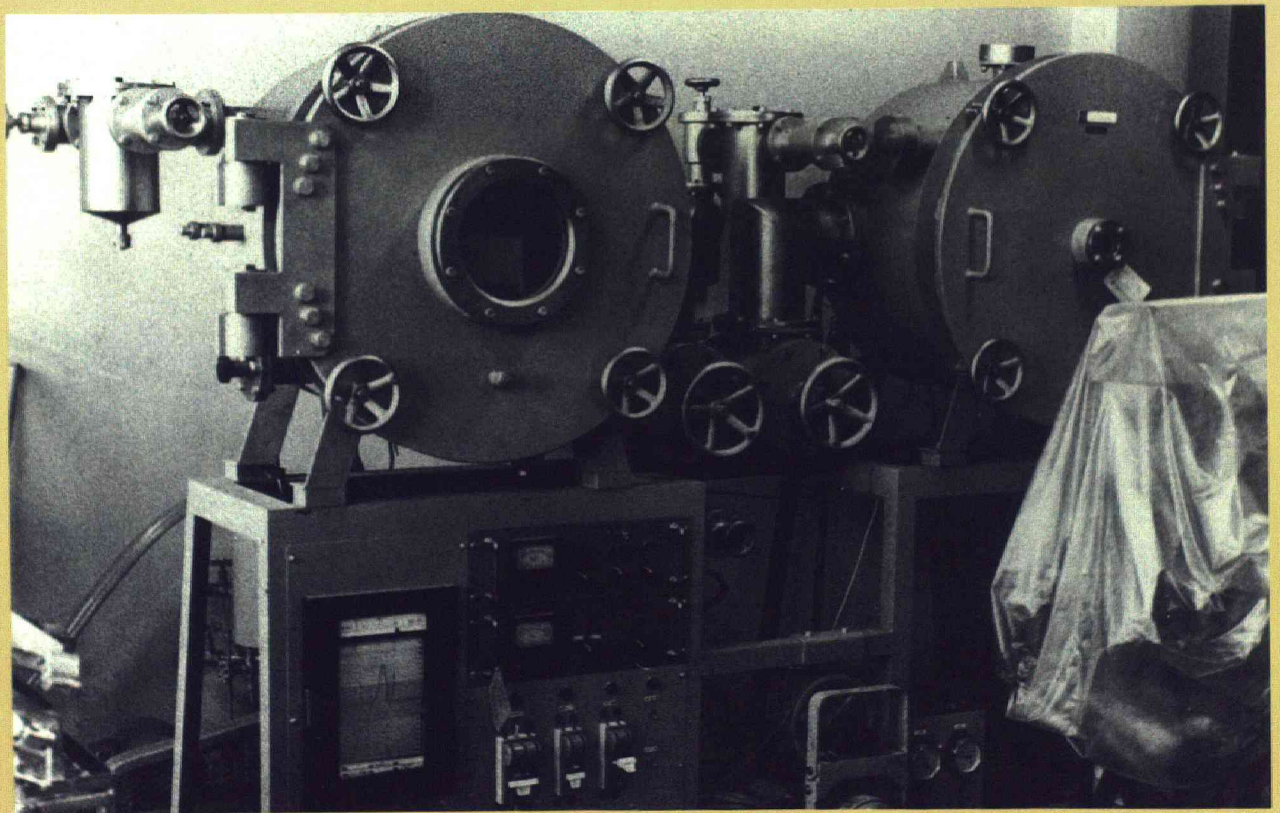
ミニチュアスピニング
セット (昭和41年)



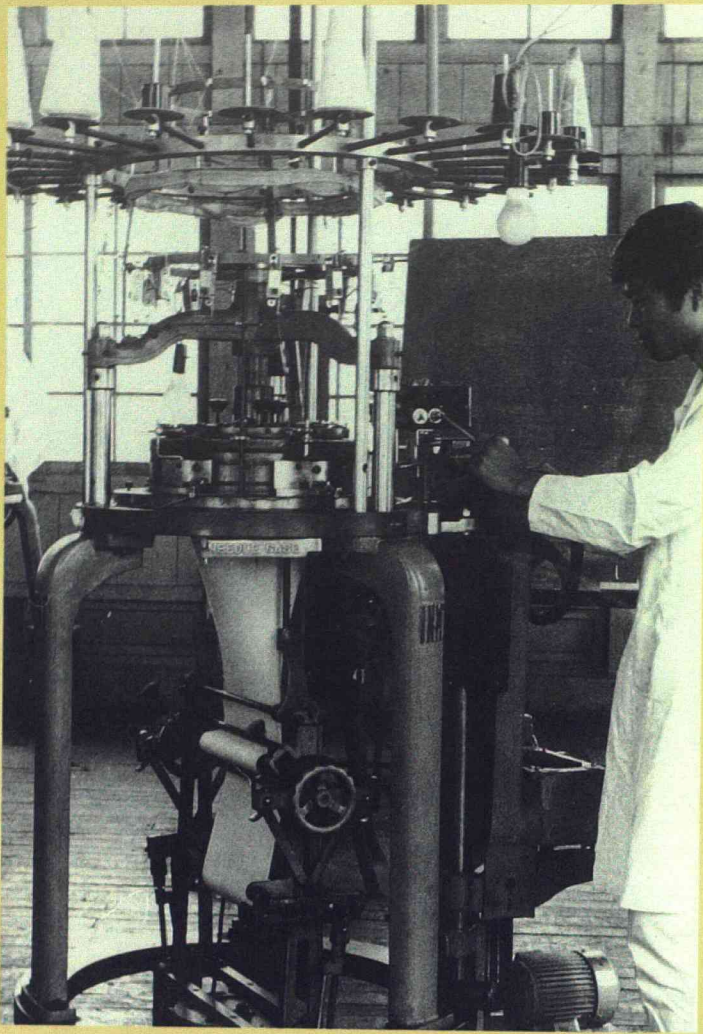
ウォーター・ジェットルーム (昭和41年)



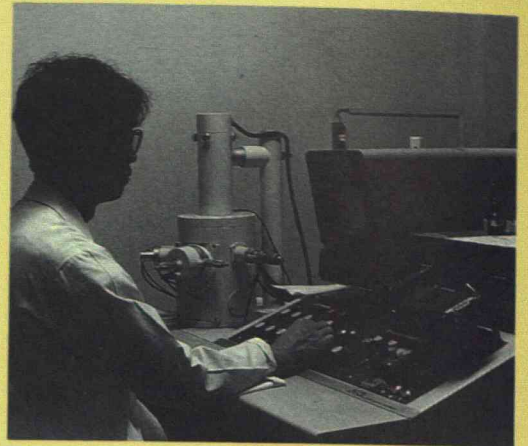
ラッセル経編機 (昭和41年)



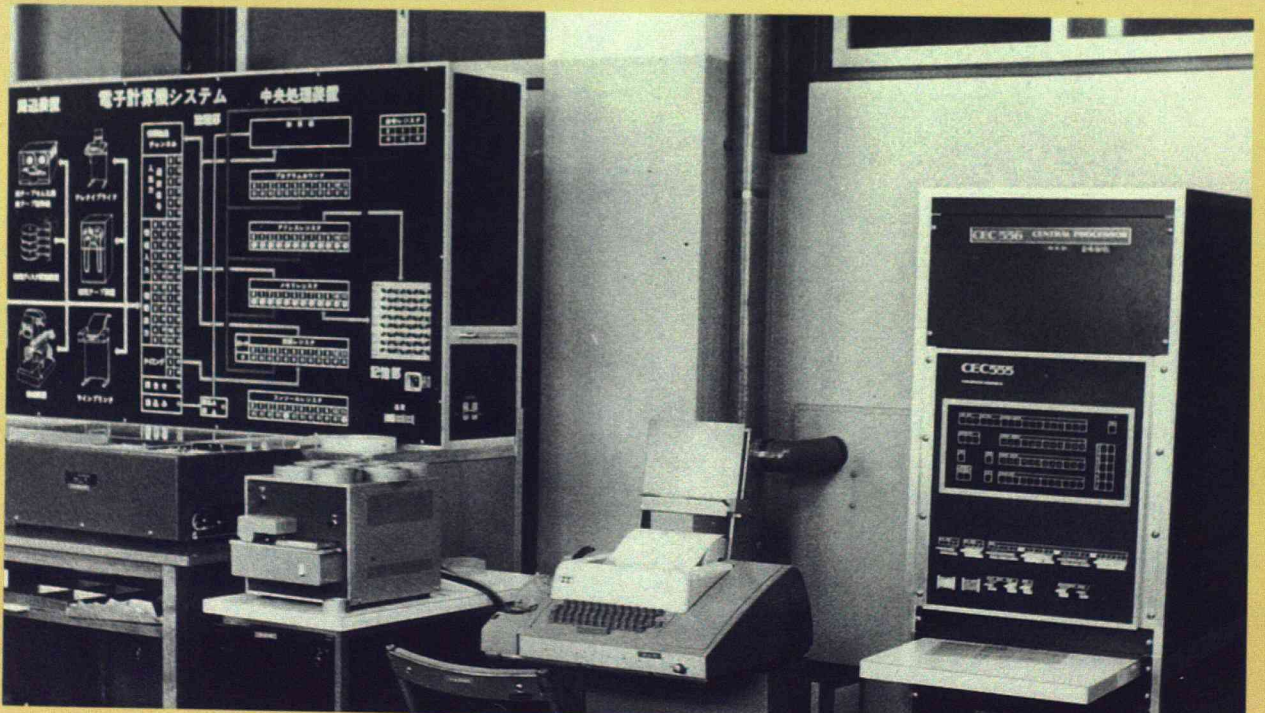
真空冷凍乾燥機 (昭和44年)



走査型電子顕微鏡 (昭和52年)



フライス編機 丸編機 (昭和45年)



電子計算機 繊維学部導入1号機 (昭和46年)

製糸教婦養成科の変遷

旧規定による製糸教婦養成科(大正初期) — 製糸教婦養成科(昭和6年)
— 製糸教婦科(昭和17年12月) — 蚕糸別科製糸コース(昭和26年) —
廃止(昭和37年)

製糸教婦養成科

大正期／昭和25年



製糸教婦養成科の徽章



旧規定による製糸教婦養成科
草創期の糸捻り風景
(大正期)



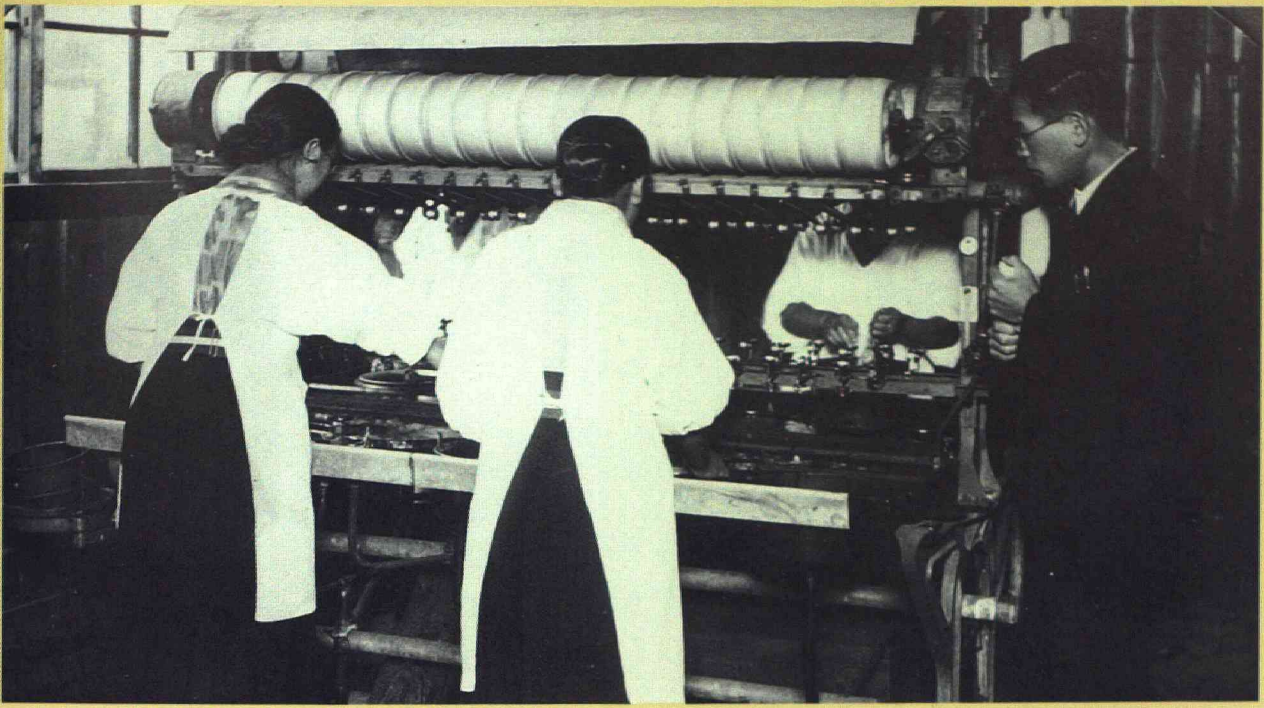
製糸工場及び貯水タンク (昭和初期)



製糸教婦養成科生徒の下校風景（昭和初期）



講堂前にて卒業記念撮影（昭和9年3月）



御法川式多條繰糸機による繰糸実習風景 (昭和初期)



生糸の揚返し(再繰)風景
(昭和初期)



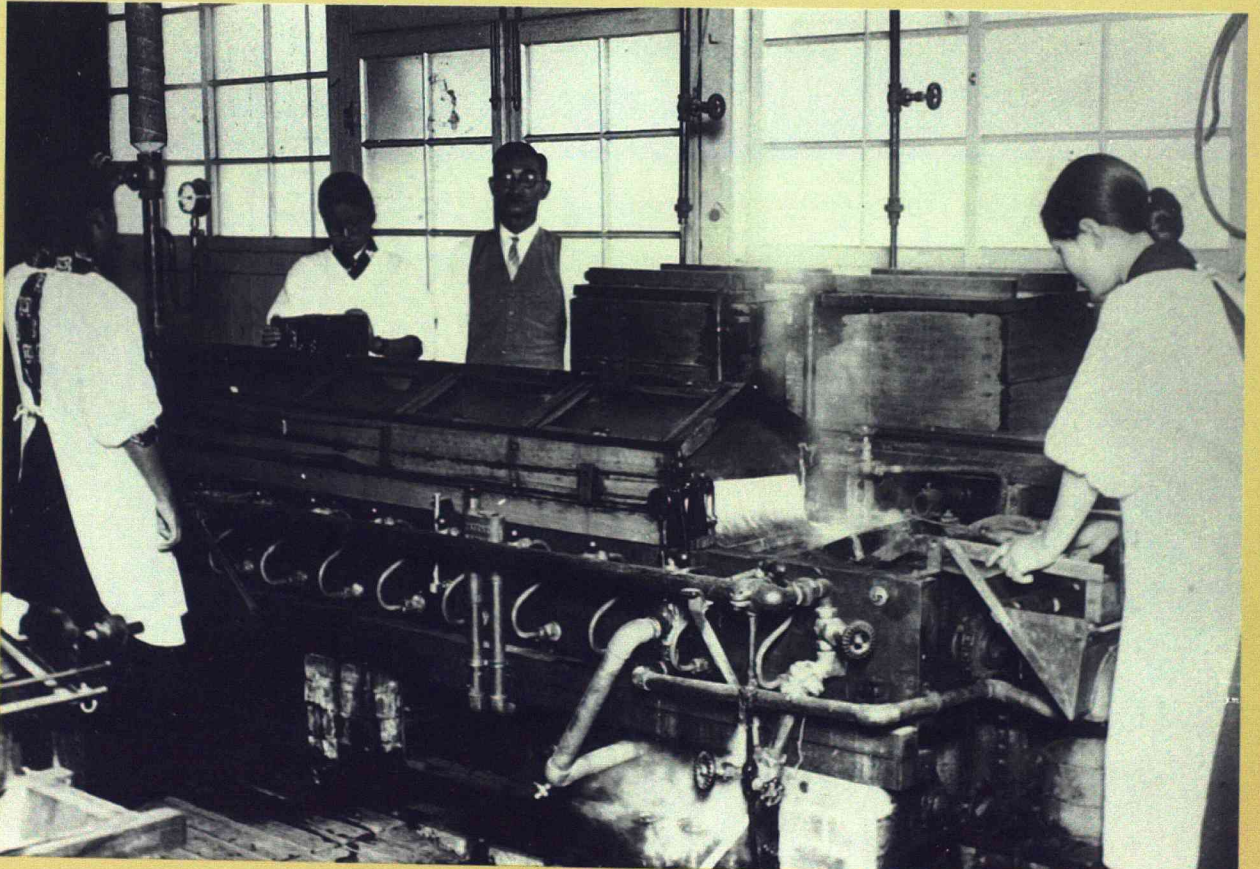
校内藤棚の下で ベルトに教婦養成科のマーク
が見える (昭和初期)



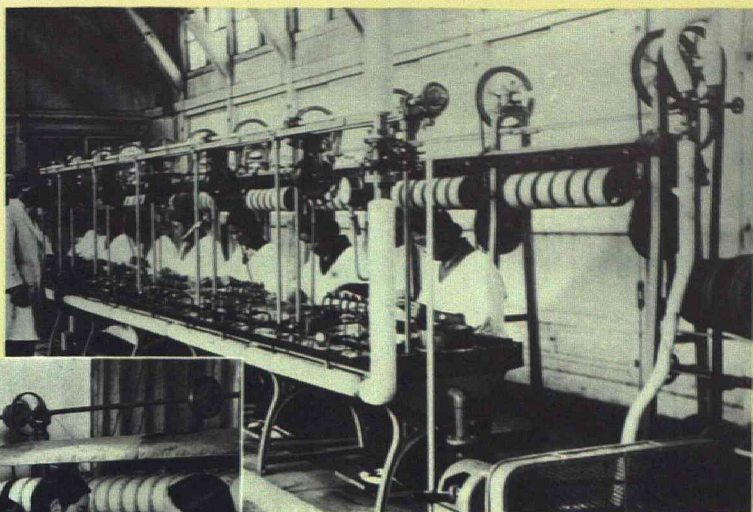
真綿加工実習風景 (昭和初期)



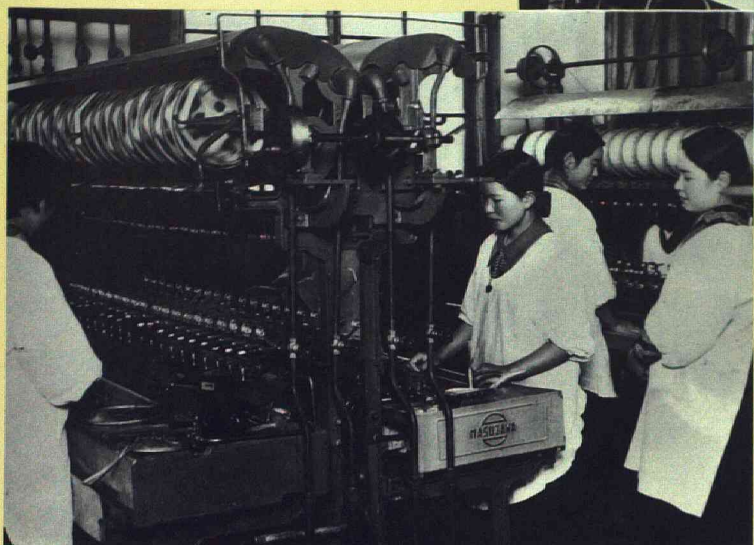
真綿作り (綿絵)



煮繭実習風景 (昭和初期)



普通機(座繰機)による繰糸実習風景
(昭和初期)



増沢式多條繰糸機による
繰糸実習風景 (昭和初期)



製糸教婦養成科及び製糸科の教官 (昭和14年)



講義風景 大瀧教授



製糸教婦養成科教室前にて（昭和12年頃）



校庭で卒業記念撮影（昭和14年）



スキー実習
菅平スキー場にて（昭和10年頃）



製糸教婦養成科教室前にて卒業記念撮影（昭和16年3月）



実習休憩のひとつとき（昭和21年）



製糸工場にて（昭和23年）



創立50周年記念・講堂前にて製糸教婦養成科及び製糸教婦科卒業生一同（昭和35年10月20日）

昭和26年～昭和37年



1回生の卒業記念
(昭和27年3月)

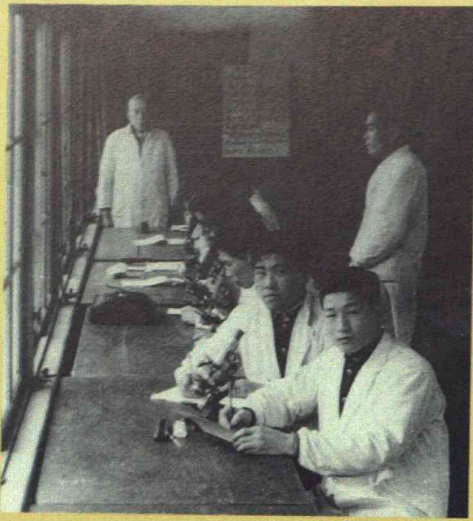


自動繰糸実習風景

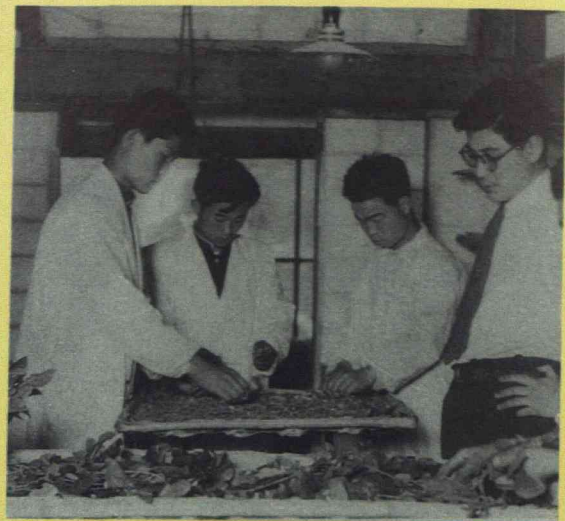


2回生の卒業記念 (昭和28年)

昭和26年～昭和37年



蚕体病理学実験



蚕飼育実習(3回生)



摘桑実習



3回生一同

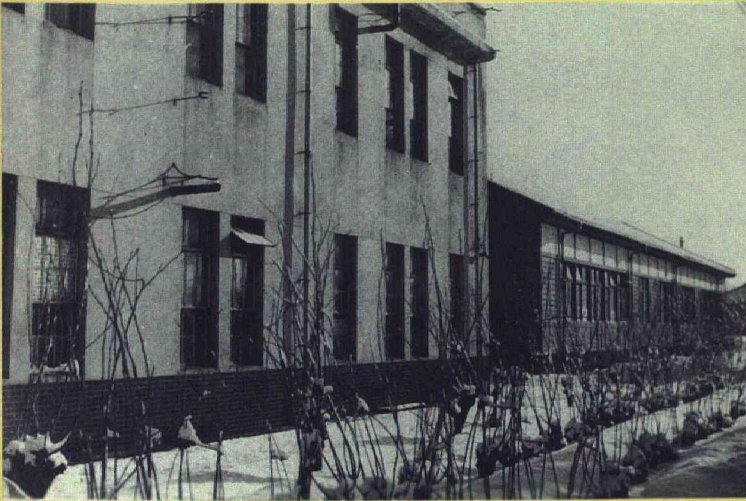
繊維化学科の変遷

繊維化学科(昭和15年)——繊維工業化学科(昭和36年)——
素材開発化学科(昭和63年)——現在に至る

建物の移り変わり



蚕糸化学研究室 繊維化学の前身の建物。現在も残っている数少ない建物で、当時では珍しい鉄筋コンクリート建て。手前はボイラー室(昭和15年頃)



化学科教官棟と学生実験棟(昭和24年)



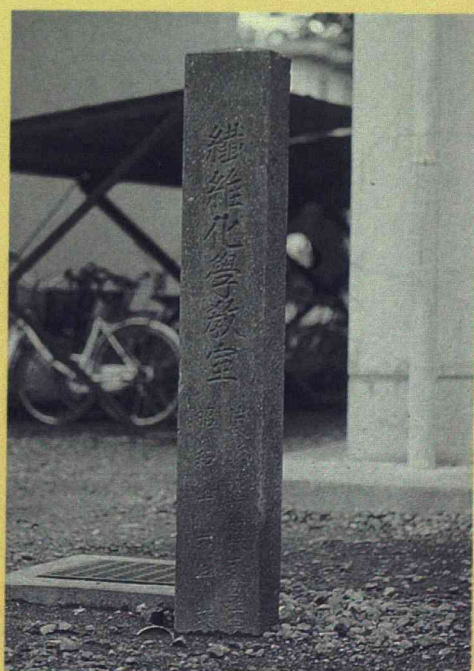
繊維化学科棟 グランドから望む(昭和24年)



繊維化学科棟全景
バックに千曲川・小牧山
(昭和29年)



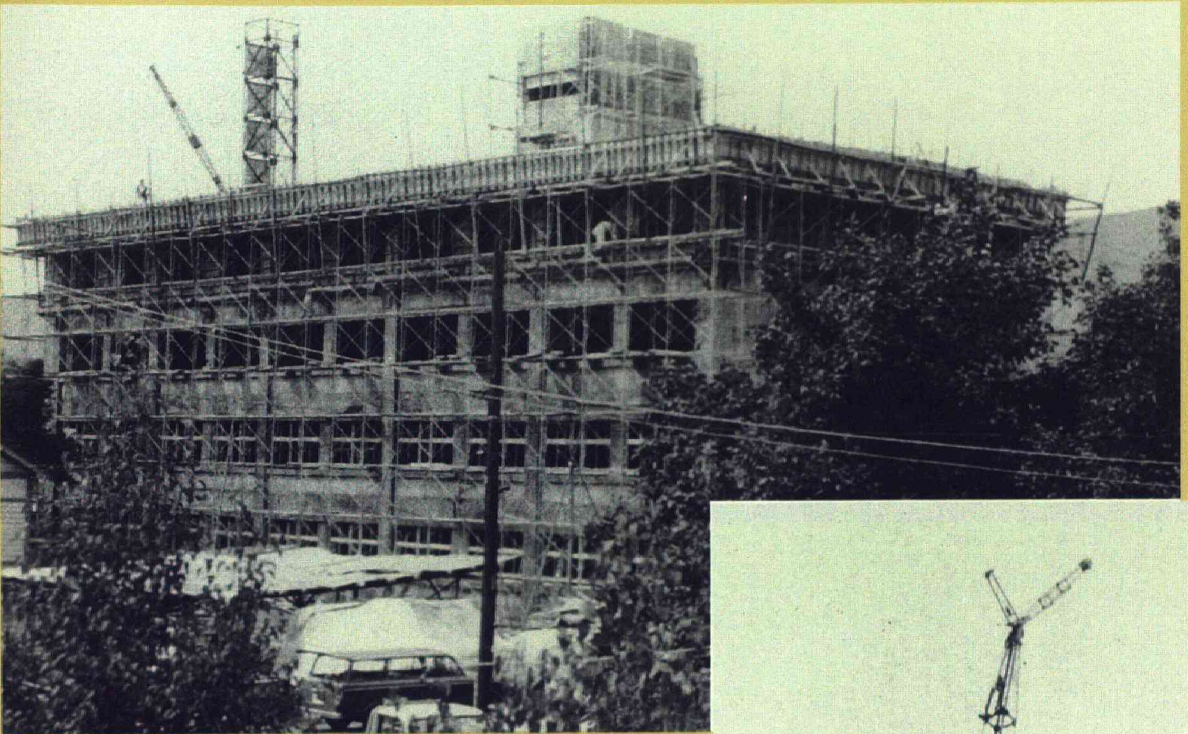
繊維化学科建物 片倉工業(株)の寄付金
で昭和16年に建てられ、昭和36年の繊維
工業化学科への改組を経て、昭和41年現
在の研究棟の建設のため取り壊される。
壊される直前に撮影したもの
(昭和41年)



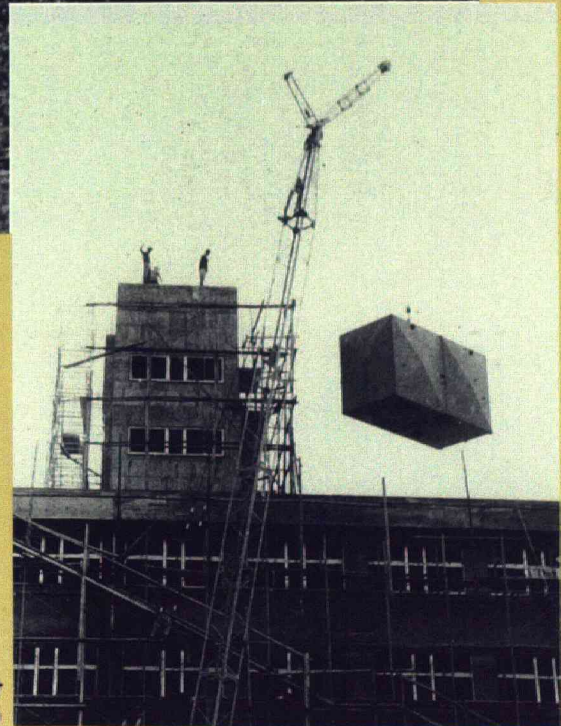
繊維化学科建物竣工記念碑 昭和16年の
竣工時に作られたもの。現在は科研究棟
の左前に建てられている



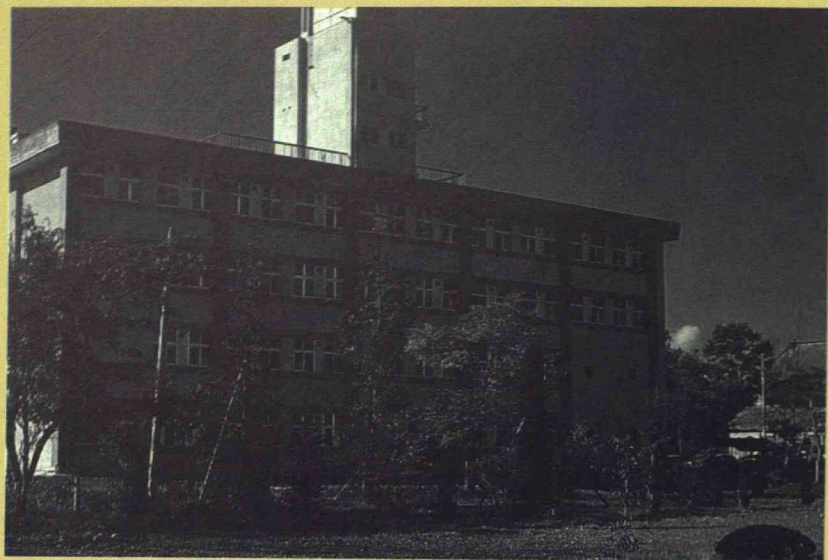
研究棟新営搬入れ式
繊維工業化学科研究棟
新営のための搬入れ式
(昭和42年)



建設進む研究棟 (昭和42年)



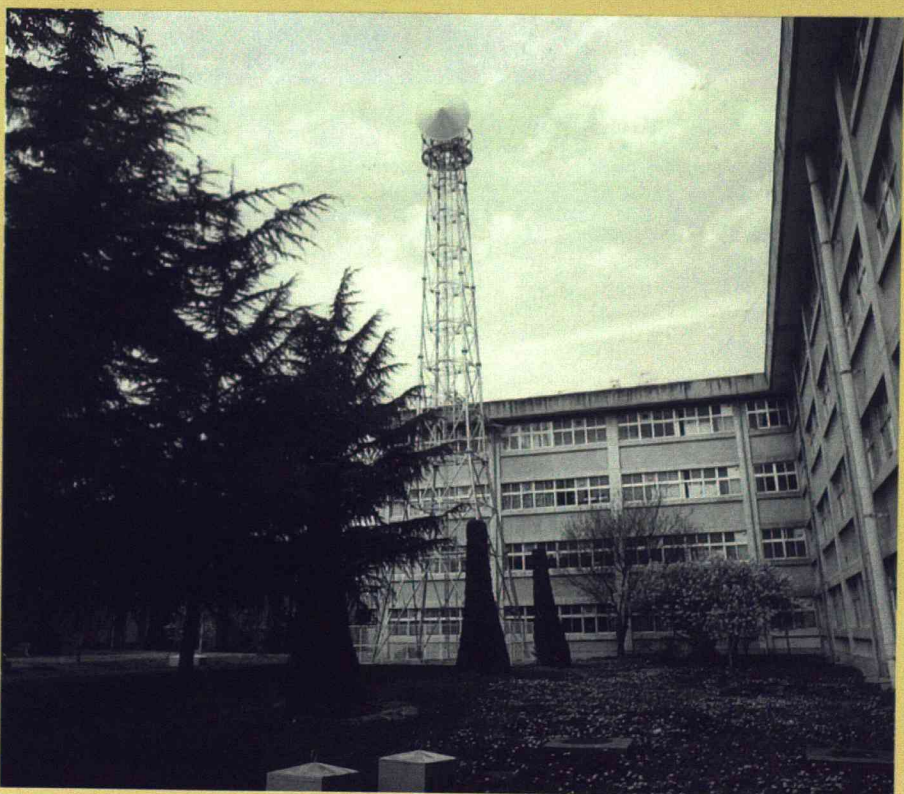
水道用タンクの据え付け
(昭和42年)



新営繊維工業化学科建物 昭和43年新築された直後の研究棟。現在隣設されている管理棟などはまだない頃



管理棟完成 科研究棟に連結して建てられた管理棟 (右側、昭和46年)

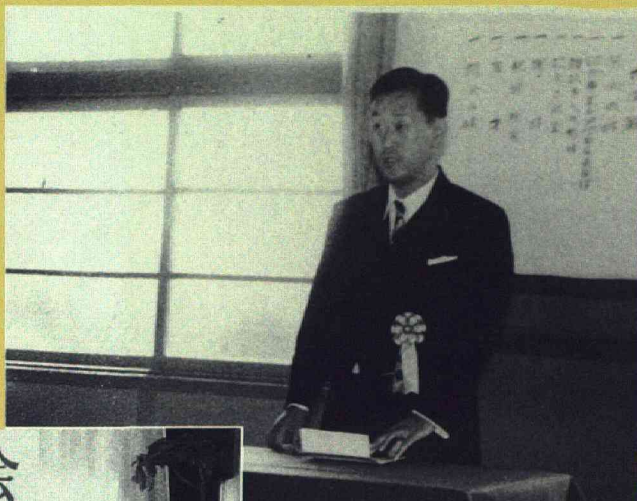


素材開発化学改組後の現在の研究棟のたずまい 昭和63年繊維工業化学科から現学科に改組され、平成2年研究棟の裏側に情報ネットワークシステム用パラボラアンテナが建てられる

信大纖維学部
纖維工業化学科
創立二十五周年記念祝賀会々場

一 式次第
 一 開会の辞
 一 記念事業実行委員会挨拶
 一 物故者への黙悼
 一 記念品贈呈
 一 謝辞
 一 祝辞・祝電
 一 万才
 一 閉会の辞

記念式典
北條委員長の挨拶



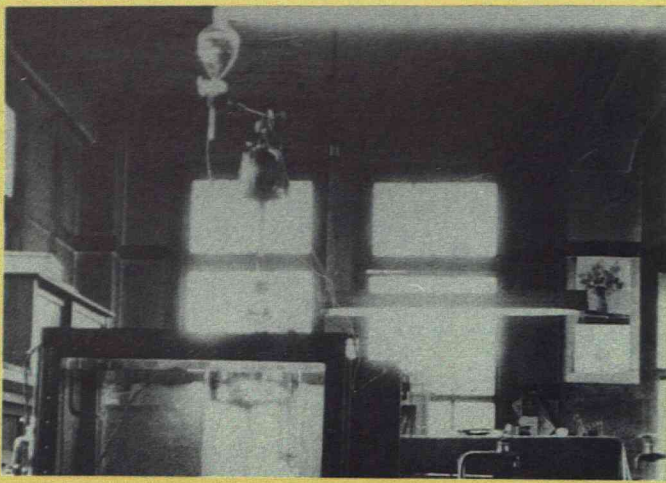
部科 創立25周年記念祝賀会



祝賀風景

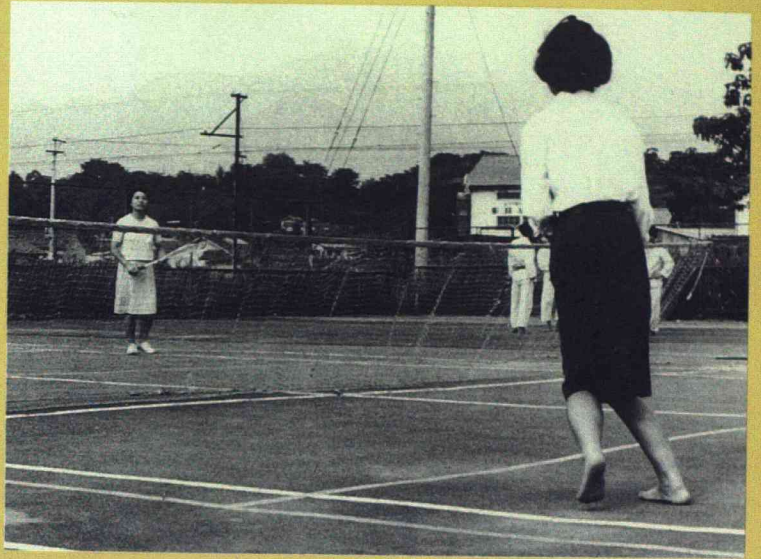


講演風景



分別実験 高分子の希薄溶液からの沈殿分別 (昭和40年)

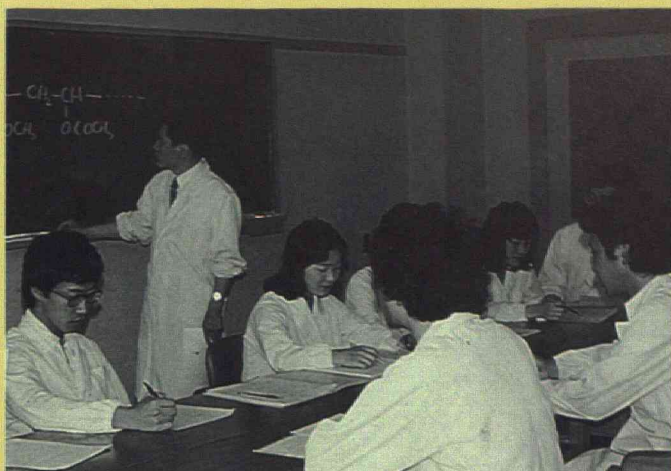
ハダシでテニス 研究の合間、科職員の人達とテニスを楽しむ (昭和40年)



新規な高分子材料の開発に励む研究室 種々の方法で交換・構造制御・修飾された高分子材料から高性能・高機能な材料を作り出すための研究を行っている院生・学部生達 (昭和55年)



ゼミ風景 講座内で、外国雑誌に掲載されている研究論文などの内容を紹介し合う
(昭和55年、三階ゼミ室で)



研究棟屋上でのビアパーティ
研究の合間、特に暑い夏の夜、研究棟屋上でビールを飲みながら研究のこと人生のことなどを語り合う(平成2年)

有機化合物の合成に励む研究室
新たなモノマー、染料、医薬品などの合成に取り組む院生・学部生達(平成2年)



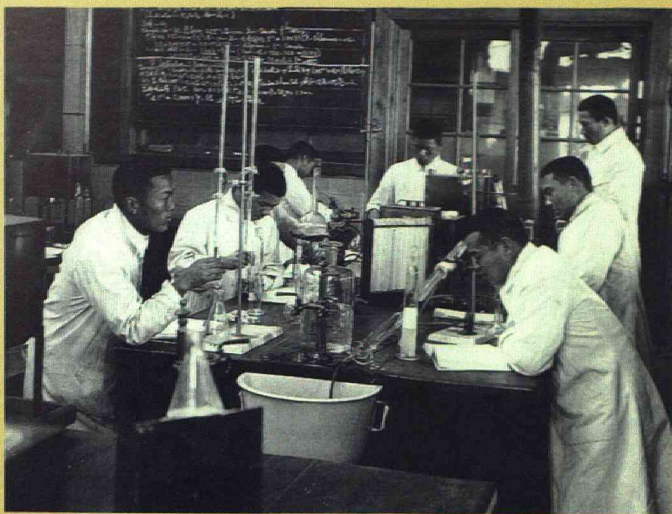
層間化合物合成装置 グラファイトの結晶間隔を種々変え、高性能な無機材料を作る合成ライン
(平成2年)



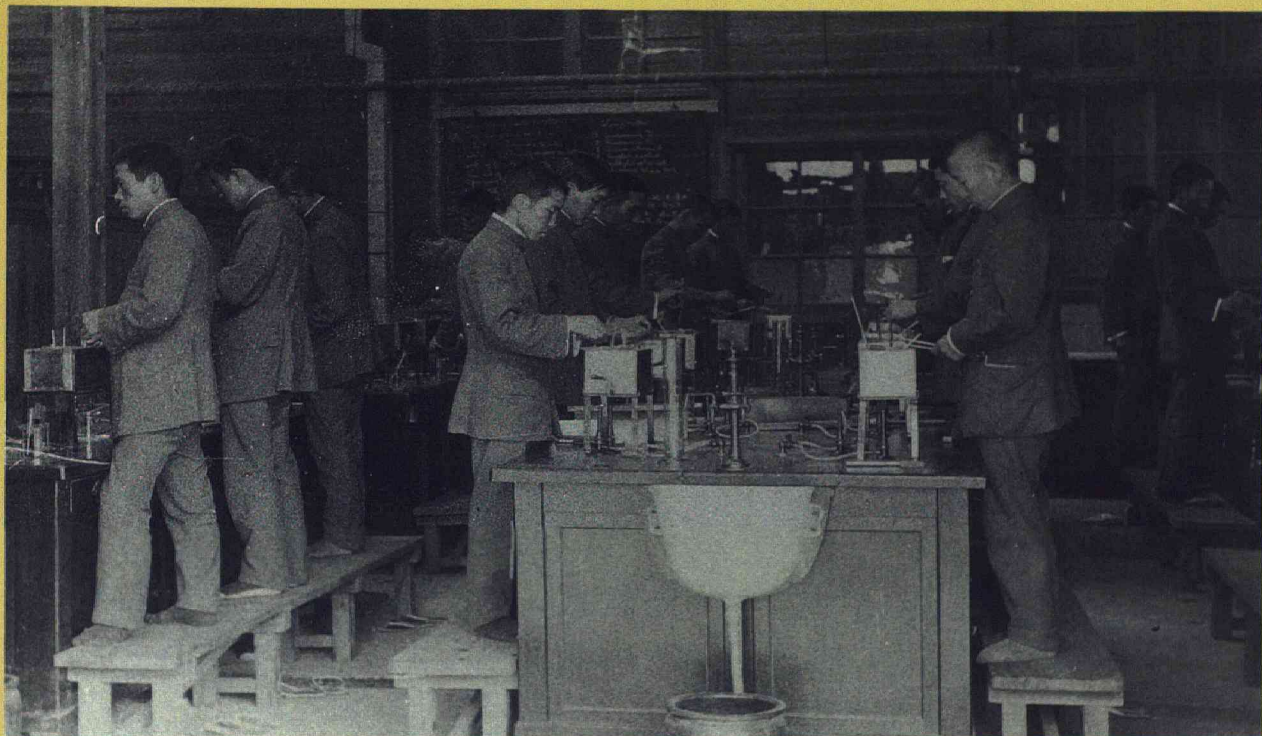
滴定による分析実習 (化学科創設以前、大正初期)



分析実験 (化学科創設以前、大正初期)



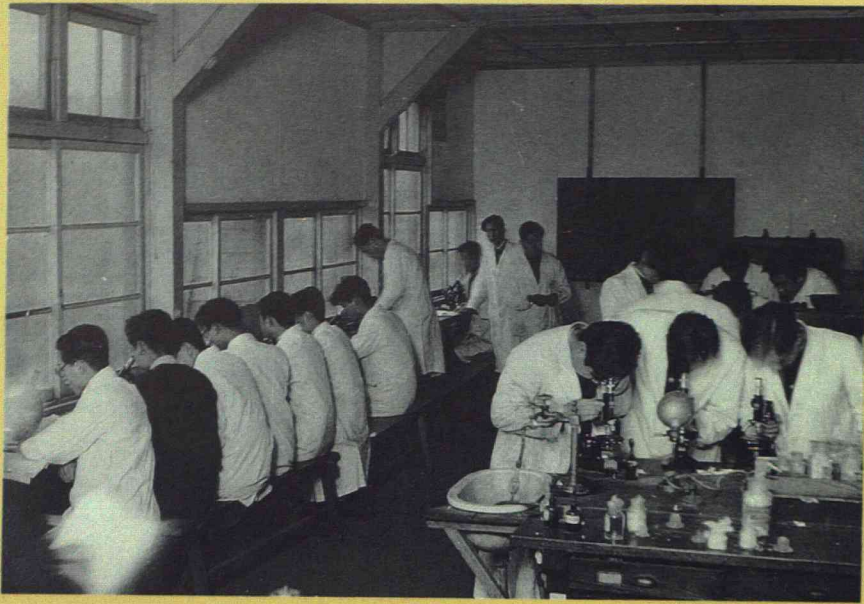
反応装置の組み立て 本を見ながら装置の組み立て
(化学科創設以前、大正初期)



染色実験 椅子の上に立って糸束を回しながらの染色 (化学科創設以前、大正初期)



化学実験風景
(化学科創設当時、昭和15年)



顕微鏡観察 微視の世界を
探る (昭和26年頃)

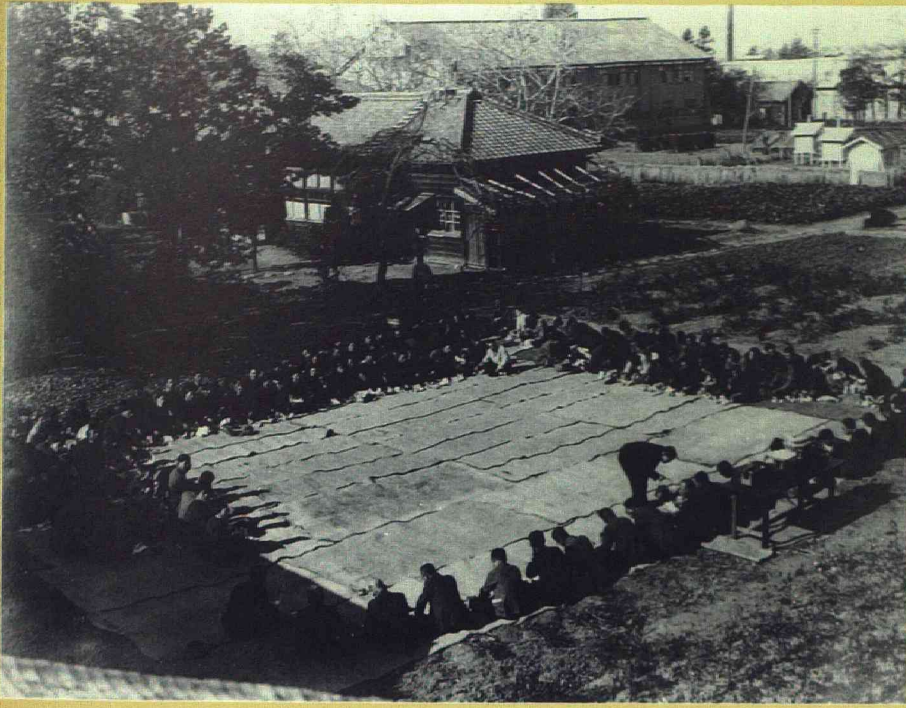
学生実験 卒業研究に入る前、2・3年次に分析、物理
化学、有機化学、高分子化学などの基礎的な実験操作・
解析を科学研究棟の三・四階の学生実験室で一通り習う
(昭和55年)



繊維農業科の変遷

繊維農業科(昭和19年) — 廃科(昭和26年)

昭和19年、26年



秋の収穫祭
(昭和21年)



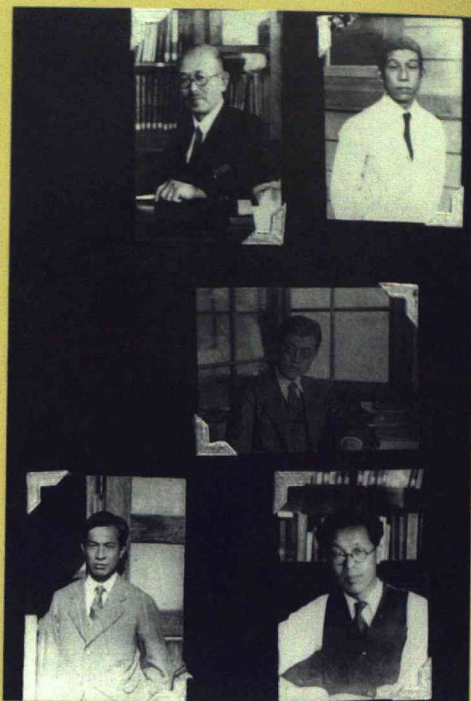
麦作実習のひとつ
(昭和22年)



新入生歓迎大会
(昭和22年)



繊維農業科2回生(昭和23年)



繊維農業科教官のプロフィール
(昭和22年)



繊維農業科3回生の卒業記念(昭和24年)

蚕糸・紡織専修科

蚕糸・紡織専修科(昭和20年)——廃止(昭和22年)



授業風景
(昭和21年)



実習風景
(昭和21年)



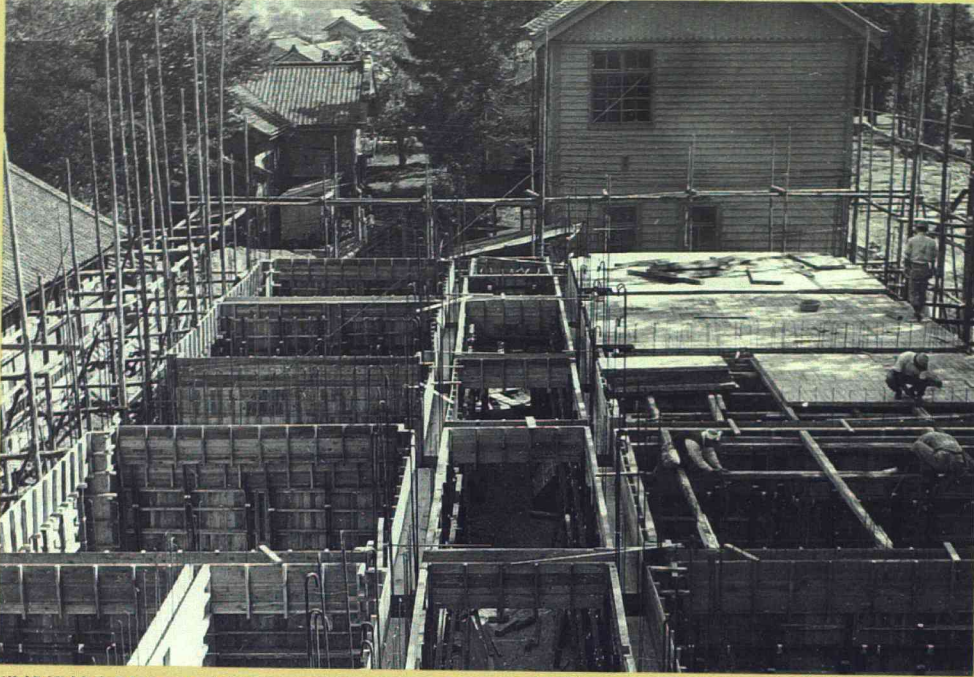
運動会 (昭和21年)

繊維機械学科

繊維機械学科表札 昭和39年設置（製糸科35回卒 緑間 武氏寄贈）

繊維機械学科の変遷

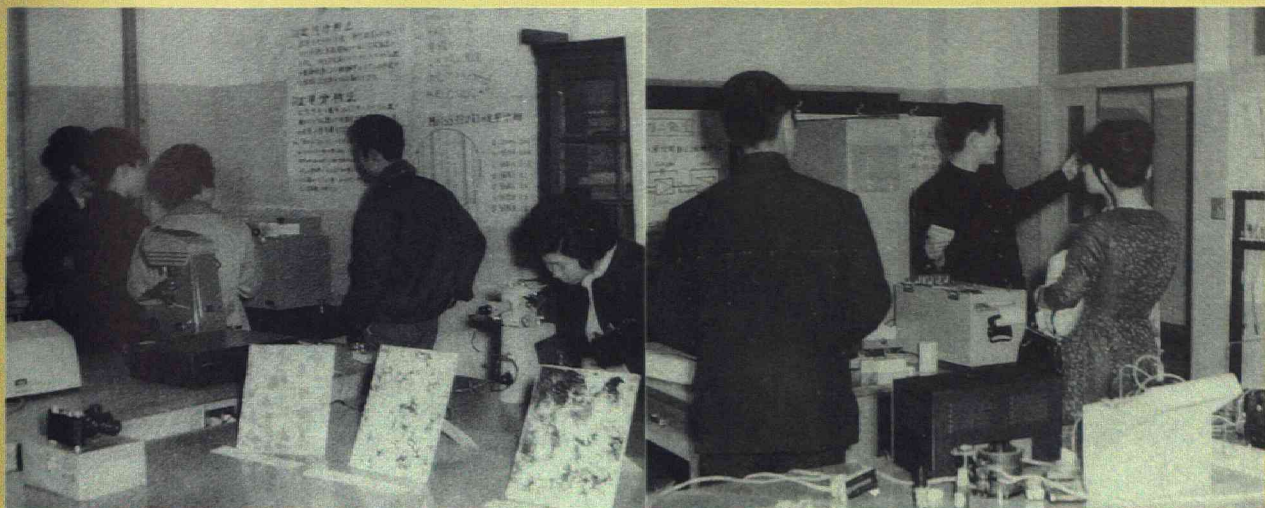
繊維機械学科（昭和36年）——機能機械学科（昭和61年）——現在に至る



繊維機械学科棟第2期工事 昭和37年より東半分に対応する工事が行なわれた



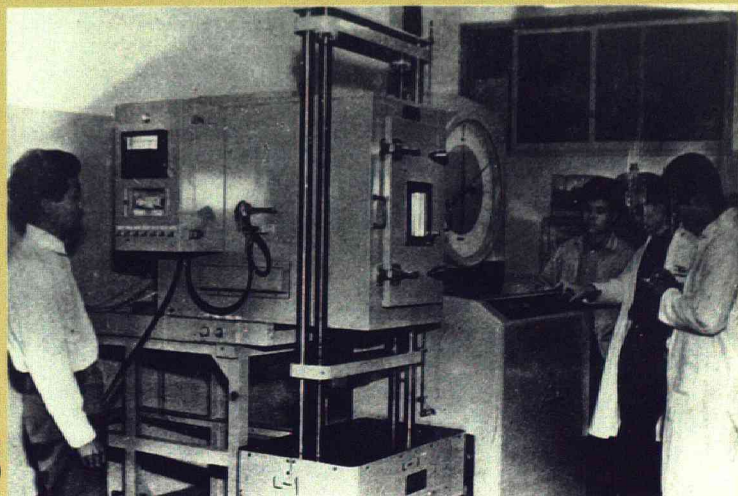
完成した繊維機械学科棟 手前に見えるのは生物教室。現在は緑地となっている（昭和38年）



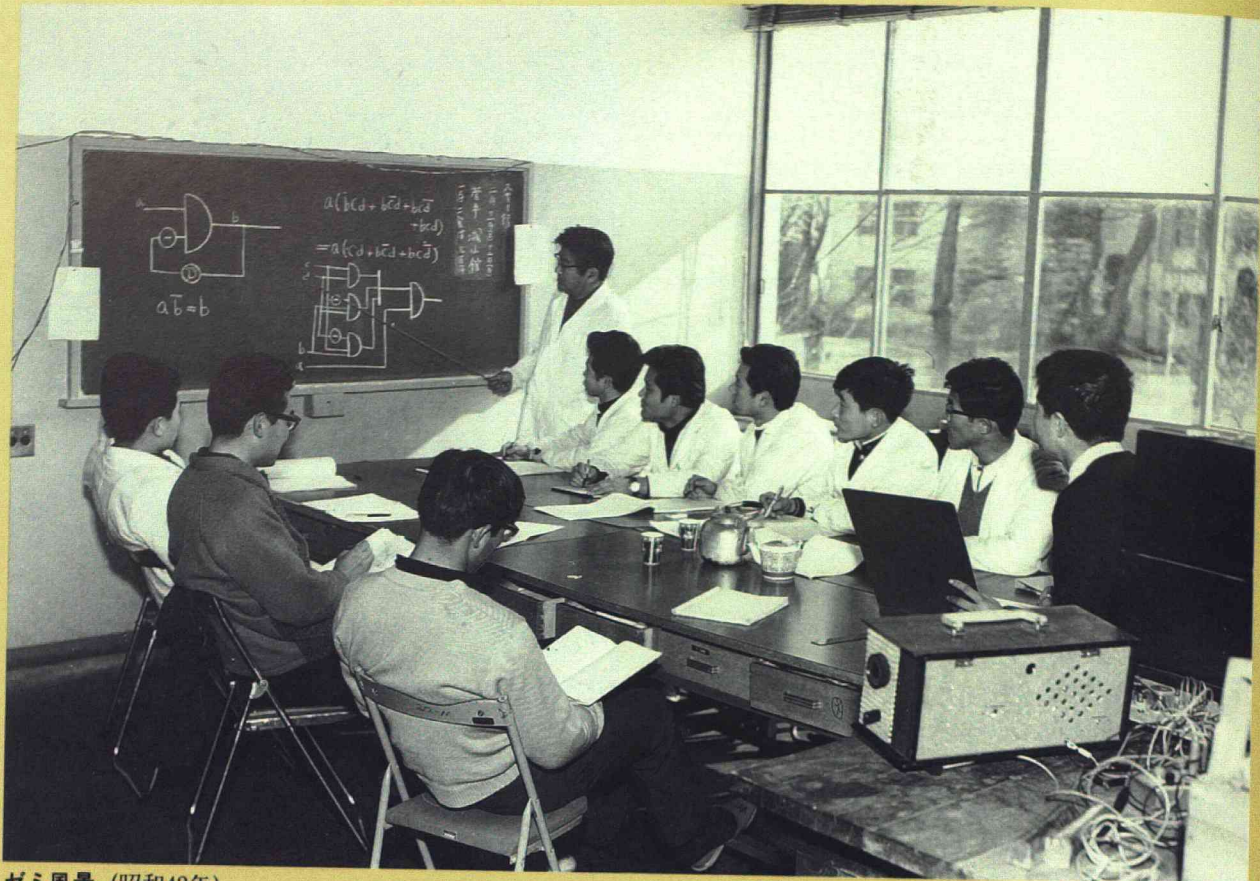
学科開放 学部祭に科を開放 (昭和39年)



機械工場 実習教育に使用されたが、新しく
繊維教育実験実習棟の新設により取りこわ
された



万能引張試験機による引張試験
(昭和39年)



ゼミ風景 (昭和42年)



繊維機械学科棟越しに見る上田市内 遠くに市役所ビルも見える (昭和46年)



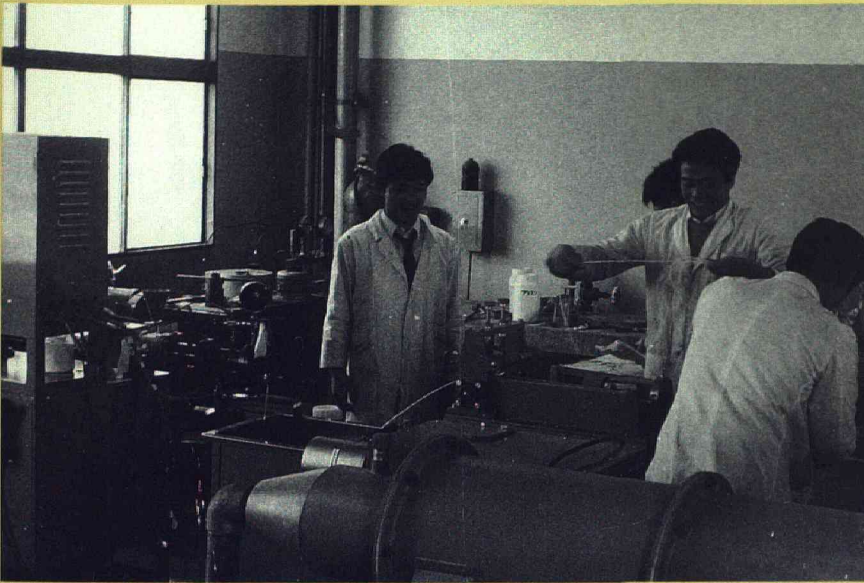
工作機械の新工場移転 新築された繊維教育実験実習棟
機械工場に機械科棟内の工作機械を移動する
(昭和63年)

繊維化学工学学科の変遷

繊維化学工学学科(昭和38年)―精密素材工学学科(昭和62年)―現在に至る。



繊維化学工学学科建物完成
(昭和39年竣工)



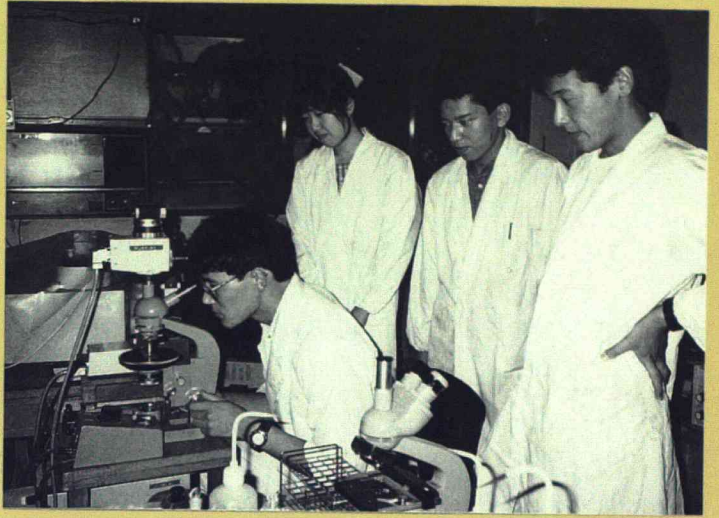
合成繊維の熔融紡糸
化学工学実験
(昭和43年)



創設当時の教職員・学生の顔ぶれ(昭和44年)



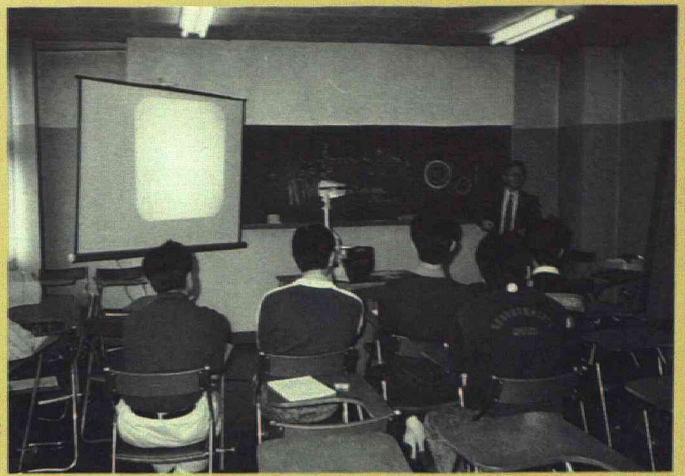
化学工学実験風景



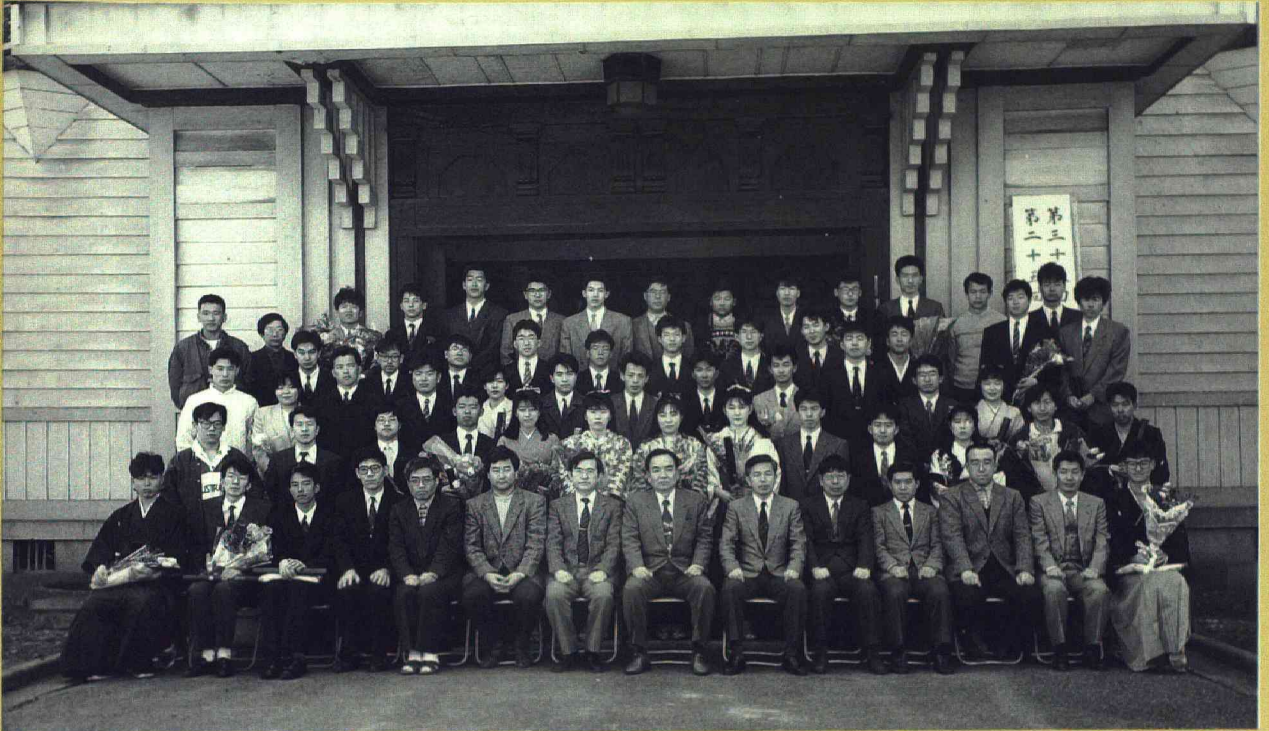
授業風景 (昭和63年)



合同ゼミナール (昭和63年)



交流研究授業
(平成元年)



最近の教職員・学生の顔ぶれ (平成2年)



現在の研究棟(左端)
(平成2年)

機能高分子学科の変遷

機能高分子学科（昭和53年）—現在に至る。



完成した機能高分子棟
（昭和54年）



地鎮祭（昭和53年）

高分子棟基礎工事
（昭和53年）



高分子棟完成間近
（昭和53年）





大学祭
機能高分子学科1期及び2期による
みこし行列の出発式
(昭和55年)



大学祭での団長の舞
振付は、繊維農学科小山長雄先生
歌詩は、機能高分子学科近藤慶之
先生による(昭和55年)



団長の舞が3年ぶりに復活
上田わっしょいの日に
(平成元年)



スバック教授を囲んで
(昭和56年)



竹本喜一教授(大阪大学工学部)を囲んで
(昭和58年)



フランスESPCI大学(パリ)より
J・シモン教授をお迎えして
(昭和63年)

付属農場の変遷

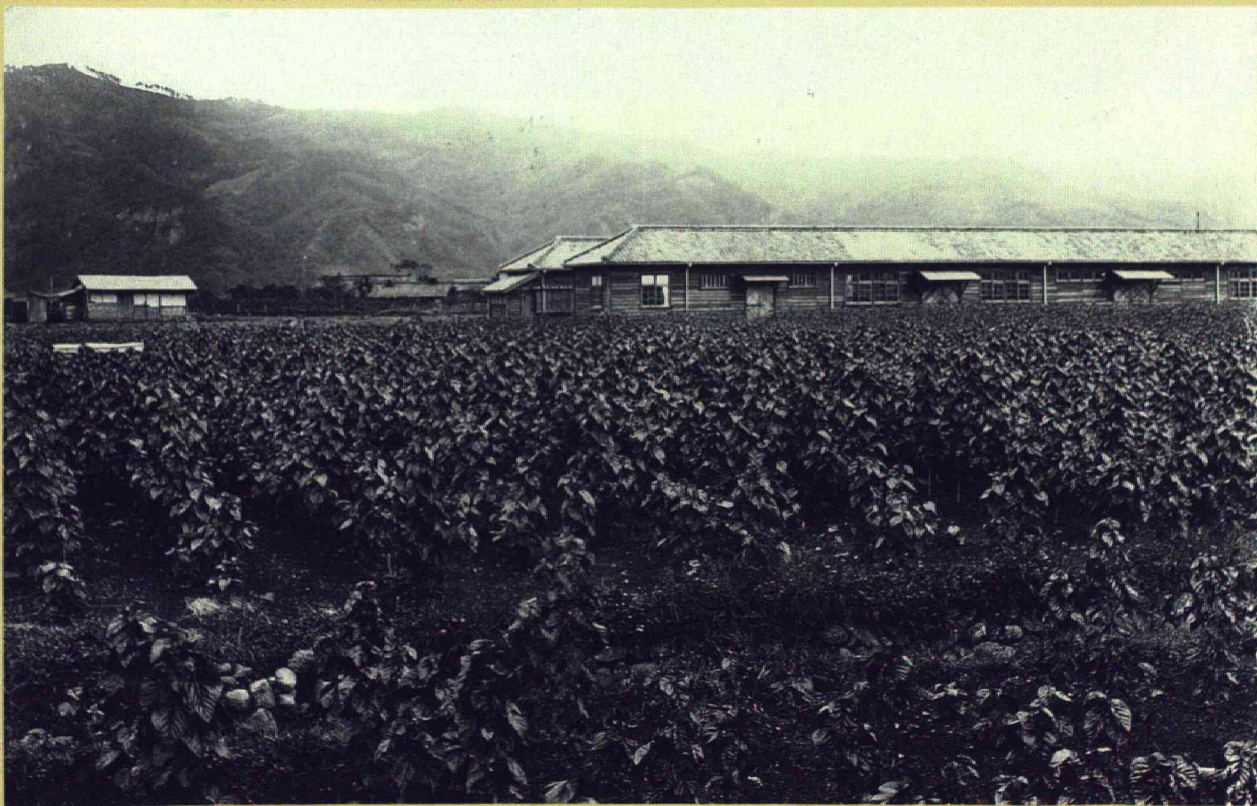
明治四三年養蚕科と共に創設―昭和一九年繊維農業科
新設にともない大室農場を併設―昭和二四年大学昇格
の際、学部付属農場として官制化―現在に至る。

学内農場



倉沢美徳先生とガラス室（昭和13年）

小牧山を背景にした農場棟と桑園創業期（大正初期）





旧管理研究棟
園芸研究室、技術室、教室
(昭和35年)



旧研究棟
栽桑、作物、畜産研究室
(昭和35年)



トレーラーの試運転 (昭和46年)

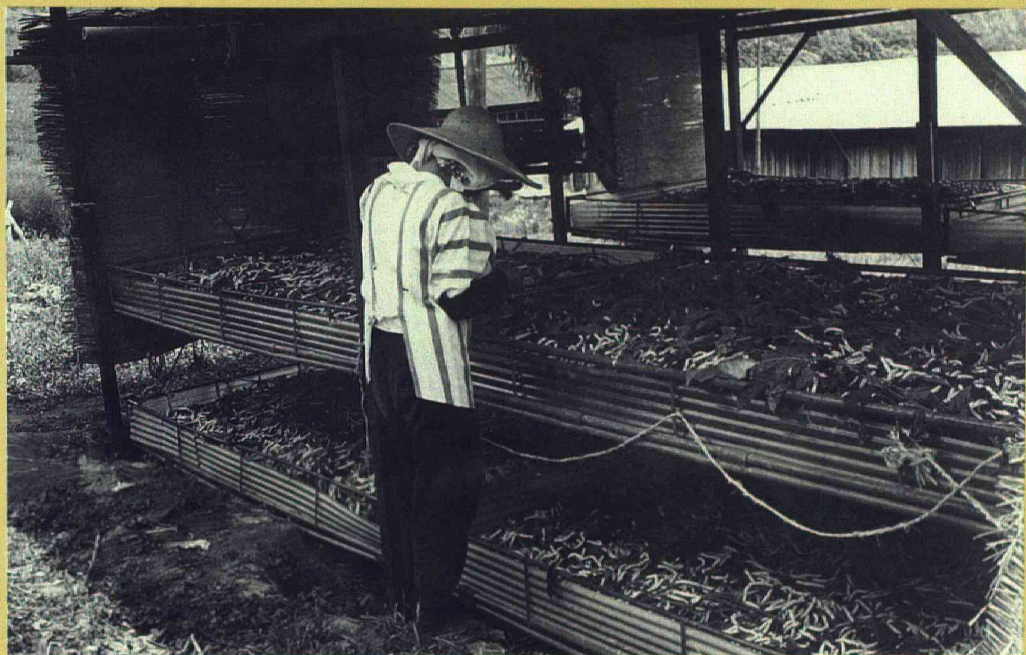


太郎山を背景にした現在の桑園

大室農場 (昭和19年創設)



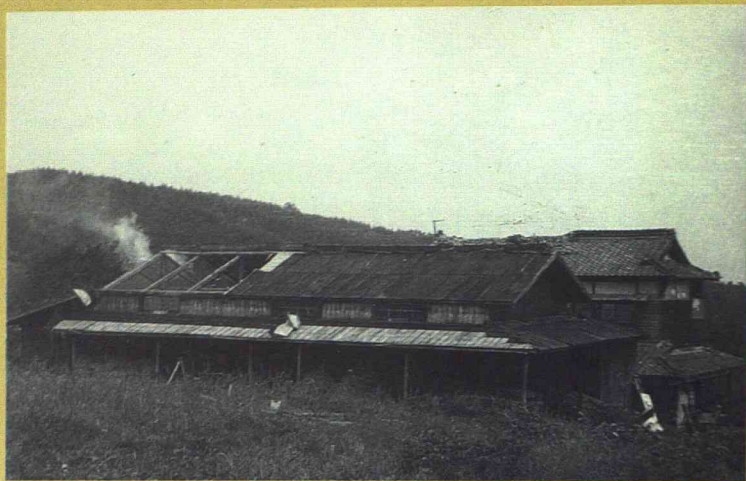
慰安のひとつ
伊藤武男先生を囲んで
(昭和25年)



大室農場での
養蚕飼育
(昭和30年代)



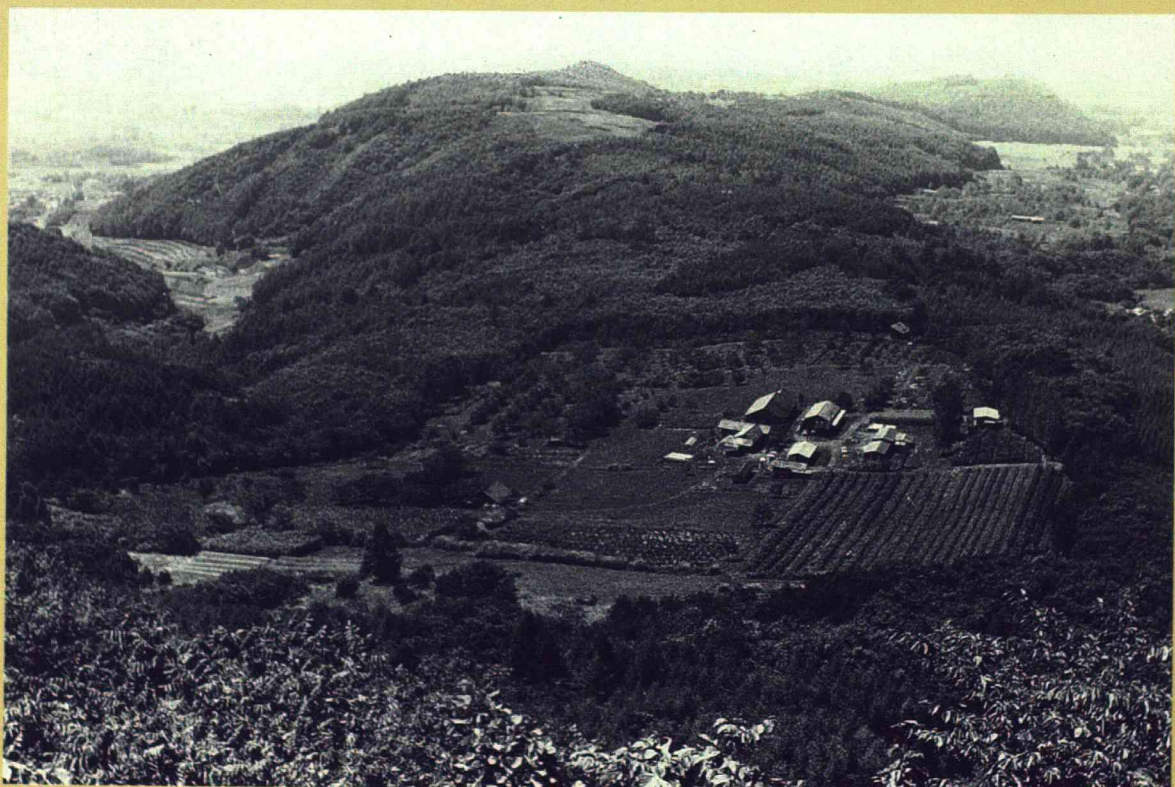
大室農場の実習風景
(昭和30年頃)



伊勢湾台風による庁舎の被害
(昭和34年)



朝日の中の緬羊
(昭和51年)

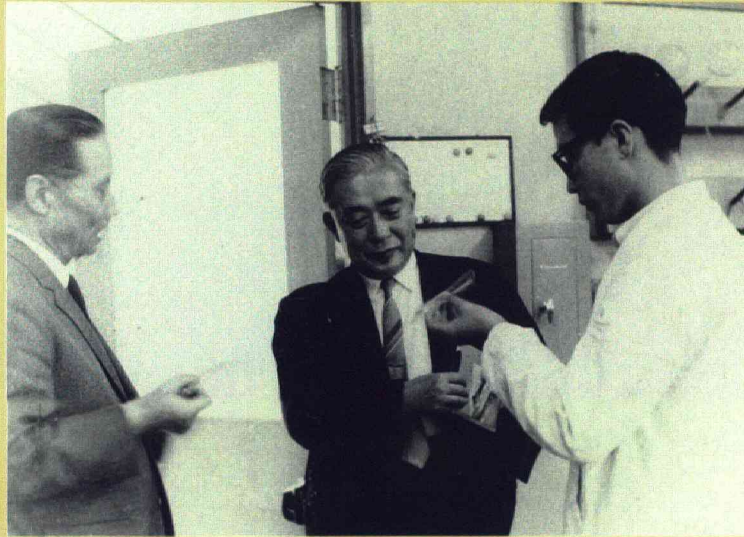


旧庁舎及び圃場全景 (昭和53年)

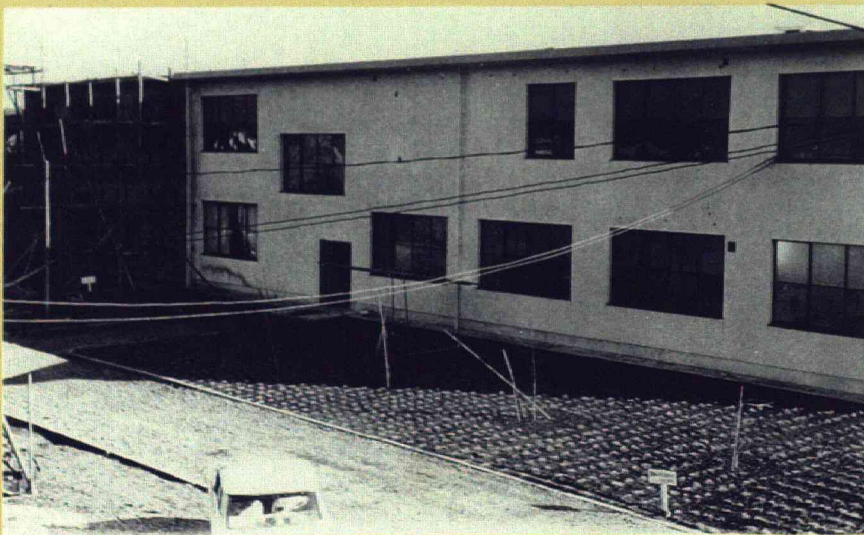
高分子工業研究施設の変遷



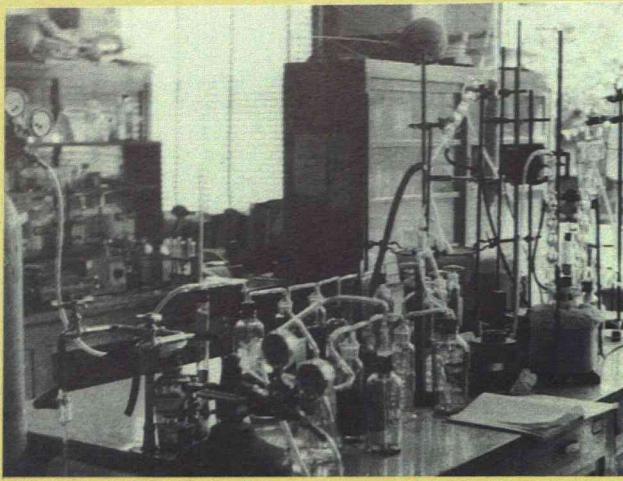
施設の地鎮祭
(昭和37年)



京大桜田教授来校
繊維工業化学科25周年を
記念し、学部で講演、そ
の折当時施設の呉研究室
に立寄り呉先生と話をか
わされる桜田一郎先生
(昭和40年)



施設増築
(昭和41年)



モノマー合成ライン 施設一階入口実験室で
まだ不完全なライン (昭和41年)



回転粘度計 絹糸の形成過程を溶液粘度から解析するため大活躍した Hercules
High Shear Viscometer (昭和41年当時)



施設全景 かなり大きくなった白樺の樹をバックに
(昭和46年)



実験に励む学生達 (平成2年)